

日
整

はつらつ!



●目次

●柔整サロン	地球から小宇宙（人体）へ、さらに健康へ	1
■輝ける未来への取り組み〈東海ブロック〉		5
■国際交流	第1回柔道整復国際シンポジウム開催	8
●私たちが柔道整復師は全国各地で活躍しています		
●講習会・公開健康講座・学会		11
群馬県	生涯学習講習会	
千葉県	第3回県民公開講習会	
神奈川県	平成23年度新入会員学術講習会	
東京都	中学校武道必修化への対応(2)	
新潟県	平成23年度学術研修会	
石川県	学術講演・県民公開講習会	
愛知県	“銀春謳歌”シンポジウムを初開催	
滋賀県	平成23年度柔道整復学術大会	
奈良県	第36回定例学術講演会	
和歌山県	平成23年度第2回合同講習会	
兵庫県	平成23年度学術研究会	
広島県	平成23年度第2回定期学術講習会	
●スポーツボランティア関連活動		22
石川県	「能登和倉万葉の里マラソン2012」ケア・サポート	
愛知県	「名古屋シティマラソン2012」で救護ボランティア活動	
和歌山県	第11回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会	
沖縄県	第27回 NAHA マラソン・第20回おきなわマラソンボランティア活動	
●介護関連活動		26
東京都	平成23年度介護予防機能訓練認定講習会	
神奈川県	機能訓練指導員フォローアップ講習会	
長野県	平成23年度介護予防・機能訓練指導員フォローアップ講習会	
●防災・救護関連活動		28
宮城県	県と「災害協定締結」報告	
兵庫県	加古川市と「災害時における応急救護活動協定」を締結	
●私の夢	向上心をもって	31
●学術シリーズ（第10回）	腰痛について	32
●ちょっとお尋ねします	がんばる女性会員 転ばぬ先の知恵(杖)！機能訓練しています	34
●本の紹介	「フシギなくらい見えてくる！本当にわかる心理学」	36
公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧		37
●投稿		38
	“万葉の里マラソン”memory／愛宕山登山	
《ちょっといい話》		25
●国際部報告会・学術・生涯学習講習会開催のお知らせ		33
■表紙解説		7
■日整文芸		40
■編集後記		表Ⅲ

●Web Page 日整ホームページ掲載記事 <http://www.shadan-nissei.or.jp/>

ここからは日整ホームページ掲載記事となります。

トップページの最新情報、健康情報誌「日整はつらつ！」VOL.5または「日整はつらつバックナンバー」から入り当ナンバー広報誌をクリックしてご覧ください。QRコードもご利用ください。



柔整サロン

地球から小宇宙(人体)へ、さらに健康へ

岐阜大学大学院医学研究科
疫学・予防医学分野

永田 知里 教授に聞く

聞き手 東海ブロック広報部長
(社)岐阜県柔道整復師会
広報部長 大橋 好一

地球という惑星のさまざまな謎を、物理的な手法で解明する地球物理学という大変難しい学問から、医師の道を目指し、病気の成因を探求し、それに基づき病気にならないようにする疫学・予防医学の研究をされておられる岐阜大学大学院医学研究科 疫学・予防医学分野 永田知里教授をご紹介します。疫学・予防医学の見地から、健康な体になるための、また骨・筋肉の健康状態を向上させるための知見をお話していただきました。

(インタビュー平成24年4月3日)

——本日は大変ご多忙の中、柔整サロンのインタビューに快諾いただきまして、誠にありがとうございます。先生の略歴を拝見しますと、東京大学理Ⅱ類をご卒業され、在学中には地球物理学を専攻されたそうですが、地球物理学とはどのような学問でしょうか。

永田先生 地球物理学とは、気象学・地震学・海洋学等の分野の総称となります。地球は私たちが知らないさまざまな謎があります。東京大学で地球の現象を物理学の計算式でその謎を解析することを学んでいました。

——地球物理学からなぜ医学の道へ進まれたのでしょうか。

永田先生 教授が黒板に数式を書かれたのをなんとか理解をしようと一生懸命勉強をした

のですが、理解せずに終わってしまいました。

簡単に言うと、地球物理学の授業についていけなかったことです。非常に難しい分野で、自分には無理だと判断しました。それから、大学に入学する前に医師という選択肢も考えていたのですが、それでも地球物理学に進み、壁に打ちあたってしまいました。

また、学生時代に家庭教師をしていまして、そのお嬢さんのご両親が東京大学医学部の医師をされていました。ご両親から「医師の仕事はまじめに誠意をもってやればできるよ」と言われ、その言葉に医師の道を志そうと決心しました。

——地球物理学が人体への研究の場で参考になるようなことは…。

永田先生 地球物理学はやはり物理なんです



【永田知里先生の略歴】

- 1982（昭和57）年3月 東京大学理学部 地球物理学科卒業
 - 1988（昭和63）年3月 岐阜大学医学部卒業
 - 1994（平成6）年3月 岐阜大学大学院医学研究科修了
 - 1996（平成8）年6月 岐阜大学医学部助手
 - 2000（平成12）年7月 岐阜大学医学部助教授
 - 2005（平成17）年8月 岐阜大学大学院医学系研究科教授
（現在に至る）
- 〈趣味〉美術鑑賞 琴

ね。ある現象をびしっとモデルで表現できる、きちっと答えが出る。それはやはり快感ですね。

例えば人体では、若い年齢ではがんになりにくいし、年を経てくるとがんになりやすい。疫学の解析では、そのなり方がモデルでいうと、直線なのかどうかというような場合が、意外に出てきます。そのようなところが好きです。

今、臨床の医師ではなく研究の場に身を置いています。疫学というのは数字で説明する学問なんです。昔、物理を勉強していたことが研究に通じるところがあります。

コンピューターの前で罹患率などのデータの解析をしていると、自分が思っていたように綺麗に出てきたりします。

——疫学といいますと、歴史的にみればコレラが有名ですが、今は感染症のみならず「生活習慣病」（がん・心疾患・脳血管障害）やあらゆる病気が対象となり研究されているそうですね。

永田先生 疫学は何を対象にしてもよいですし、それこそインフルエンザでもよいわけです。いま言われたとおり、生活習慣病や慢性疾患が主となっていますが、この研究室は「がん」が研究対象となっています。

——大学院では疫学・予防医学分野を研究され、ご教授されておられますが、どのような講義をされておられるのでしょうか。

永田先生 学生に教えるのは研究の方法論で、例えば、こういうことをしていたら、こういう病気になると思ったとします。じゃあ確かめるのはどうしたらいいのかとなります。その方法を教えています。

一般的に疫学・予防医学では、こういうものを食べてはいけませんよとか、こういうことをしてはいけませんよという結果を教えているのだろと思われるかもしれませんが、逆にわかっていることは少ないのですから、あまり教えることはないのです。

——柔道整復師は日ごろより、骨・筋肉などの怪我の施術を仕事としていますが、疫学からみた骨・筋肉の研究はいかがでしょうか。

永田先生 日本でも海外でも世界的にビタミンDが骨や筋肉の構成や機能にどのように関与しているかを研究しているのですが、ビタミンDを積極的に摂取したほうが骨・筋肉の機能のために良いとされています。もちろんカルシウムの摂取は、昔から良いと言われていますが、カルシウムの吸収を高めるためにビタミンDが必要とされています。

——ビタミンDを摂るにはどのようにすればよいでしょうか。

永田先生 食べ物からですと魚が一番ですね。しかし食べて摂る量は限られていますので、体内に増やすのは日光にあたるのが大事です。ただ、過剰に日光にあたるのは皮膚がんのリスクを高めてしまいます。

白人のほうがリスクが高いので、米国では一時期、日光にあたってはいけないと強く言われた時期がありましたが、ビタミンDの良いところが見直された経緯があり、今では注目されています。皮膚がんにならないために、体の部分的にあたるのが良いとか、いろいろと言われています。

がんのためには良くないが、骨・筋肉には良いというバランスが大事です。そのあたりが今、疫学では研究されているところです。

接骨院に来られる患者さんの中には転倒したくないためにいろいろと相談されることもあるかと思いますが、強い骨を作ることを日ごろから心がけることも大事です。

また、筋肉に関してですが、日本の研究ではありませんが、海外のある研究では、1つの筋力を表す指標として、握力が強いほうが長生きできると言われています。

疫学的手法により、ある一定数の人間の握力を測り、体重の肥満度も計測して、その後の調査をしてみると、そのような結果が得られました。また、適度な運動だけでも長生きできると報告されています。

柔道整復師の先生方も、怪我をされた高齢者の筋力回復や、介護予防で筋力・筋肉量の低下を防ぐにための機能訓練指導をされているそうですが、重要なことですね。

——教授の研究室では栄養疫学も研究されていますが、特に興味深い知見などありますか。

永田先生 大豆の研究をしています。面白いですよ。

大豆にはイソフラボンという成分が入っていますが、女性ホルモンと似ています。女性ホルモンが多いと女性乳がんになりやすく、例えば太っている人はかかりやすいです。米国に多いですね。

イソフラボンは女性ホルモンに似ているから女性ホルモンの作用の邪魔をします。反ホルモンの作用を持つから大豆を多く食べていると乳がんになりにくいと考えられています。

逆に閉経後にはびっくりするほど女性ホルモンが減少し、そのため、ほてりなどの更年期症状が現れます。そのときにはイソフラボンが女性ホルモンのように働き、これらの症状を抑えるようになるのではないかと言われます。

——接骨院では骨折の整復を行いますが、高齢者に多くみられる骨折を起しやすい骨粗しょう症も大豆のイソフラボンが関係しているのでしょうか。

永田先生 ホルモンの値が高いと骨粗しょう症になりやすく、閉経後にホルモンが低い方がやはり骨密度も低いです。大豆の代謝物とされるエコールが体内でできる人とできない人に分けられ、できる人が骨密度が高いと言われます。ですから、大豆の摂取も大切なと思います。

——少し話題が変わりますが、現代は超高齢化社会になりつつありますが、それに伴い高齢者の認知症の方が増加しています。

柔道整復師も介護分野では機能訓練指導員として活動をしています。認知症を患った方も機能訓練指導を行うことがあります。疫学からみた認知症の知見はありますか。

永田先生 疫学からは、なぜ認知症になるのか、あまりはっきりとわからないのですが、行動的な方、友だちが多い方はなりにくいと言われています。

先ほどの話にも関係しますが、ビタミンDも認知症に関係するという海外のレポートもあります。

認知症になっても魚を食べさせるのも大変ですし、日光にあてるのも大変です。そうした場合、ビタミンDなどのサプリメントも必要かと思います。認知症対象者でビタミンDを摂取していた方が、転倒は少ないでしょうという海外の疫学研究のレポートもあります。

あとは、ホルモンの治療が認知症に良いのではないかという研究がなされています。

——巷には今、さまざまな健康関連の情報が氾濫しておりますが、教授からの養生訓などがあればお聞きしたいと思いますが。

永田先生 あまりないですね。病気にならないためには「肥満解消・禁煙・運動が基本」です。これが体に良いよという研究者がいますが、疫学からのデーターは思ったとおりになかなか結果は出ません。

研究者としては1つの研究結果を報告するのですが、暫く待っていると類似の研究がいくつか報告された段階で世界の疫学の専門家が集まり、それら全体を見回すとどうも良いらしい、そこで判断をしています。

ですから、これが良いとはなかなか言えません。人間を扱っていますので慎重にならざるをえません。

健康ブームもあって、あれが良い、これが良いという健康に関する情報はほどほどに捉えたほうがよいのではないのでしょうか。

——最後に、今年11月4日(日)に開催される(公社)日本柔道整復師会 第47回東海学術

大会では特別講演をお願いしておりますが、どのような講演をされる予定でしょうか。

永田先生 私は生活習慣病、主にがんの研究をしておりますので、どのような食習慣をすれば、がんが予防できるか、現段階の知見ではどういったことが研究されているかをお話したいと思っています。

——健康になるため、病気にならないための知見を、疫学・予防医学研究からお話していただき、大変参考になりました。学会で教授の講演を拝聴できることを楽しみにしております。

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

〈インタビューを終えて〉

地球物理学と疫学・予防医学、それぞれの分野は異なるが、科学者としての教授の姿勢が感じとられました。健康な体づくりをするために、また柔道整復師の業務に関する骨・筋肉の疫学からの知見は、大いに参考になりました。

インタビューでは、教授のお好きなワインの話題から、ワインに含まれるポリフェノールの話へ、そしてポリフェノールから大豆に含まれるイソフラボンへ、どんどん話題がひろがり、その成分が体にどのように影響を与えているか、疫学・予防医学からの観点から、大変興味深く最新の知見を拝聴することができました。

最後にもう一度、
「病気にならないためには肥満解消・禁煙・運動が基本」

お心当たりのある方は、ぜひ実行を。

輝ける未来への取り組み

《東海ブロック》

● ● 静岡県柔道整復師会 ● ●

【経費削減のために】

本会の広報誌「接骨静岡」は、平成20年にちょうど各部会の人員削減および経費についての見直しがあり、「紙」という媒体を使用のをやめ、デジタル化に移行しました。その理由は、経費のかかる印刷代にありました。毎年100万円以上もの印刷代がかかっていたため、以前から世間でもペーパーレスという言葉が流行し、医科では電子カルテ化が進められた時期でした。

【メリット】

インターネット上に、PDFファイル形式で掲載をするという方法によって、WindowsやAppleといったパソコンの種類や、最近のスマートフォンなどの携帯端末のメーカーを問わずに写真や文章を読むことができること、カラー写真などを多用してもコストを掛けずに閲覧できる形式で情報発信ができることです。

【デメリット】

インターネット環境をお持ちでない方は、閲覧ができません。そのための対策としては、本会では、事務局から希望者に印刷をして配布しております。

また、「接骨静岡」を読むためには、自分で社団のページにアクセスをしなければならないという作業が面倒と思う方もおられるかもしれません。

【結果】

冊子で送られてきても読まない方は本棚に飾るか、捨てるかです。デジタル化してインターネット上に掲載すれば、少なくともゴミにはなりません。しかしこれは編集する側としても、読者に興味を持って読んでいただける誌面づくりという面では、「紙」を媒体としても、ネット上でデジタル化しても同じですので、常に内容など検討をしていかなければならない重要な課題だと思います。

今後は、さらに経費面や環境への配慮の観点から「紙」という媒体の使用頻度は少なくなってくるものと思います。

また、情報自体は紙に印刷したものであっても、ネット上に掲載されている情報であっても、読み手側からすればなんら価値が変わることはないので、掲載記事の内容さえ充実していれば、ホームページ上に掲載したからというデメリットはないものと考えます。

(広報員 小澤喜一)

● ● 三重県柔道整復師会 ● ●

本会では、公益法人資格の取得に向けての準備を急ピッチで進めており、その取り組みを紹介します。

【保険部施術録指導会、勉強会、全会員および社団外柔整師対象に学術研修会・保険指導会】

本会では、柔道整復師の施術に係わる医療保

険制度達成の協力に関する事業、柔道整復師の資質向上および発展に資する事業として保険部施術録指導会、勉強会、全会員および社団外柔整師対象に学術研修会・保険指導会を開催しています。

「保険部施術録指導会」は年3回開催しており、入会1年未満の会員を中心に施術録の意義、保険取り扱い業務範囲、申請書について返戻への

対応、一部負担金徴収について、自賠責の対応など説明・質疑応答し、個別に施術録を点検し指導しています。

学術部・保険部・IT委員会により「勉強会」が年3回開催されています。これは「いまさら聞けないような、ふだん聞けないような内容」でも、ざっくばらんに意見交換し、お互いに勉強ができるような場を設けようという趣旨で平成23年度から始まりました。活発な意見交換の場となっています。

また、毎年秋には「学術研修会・保険指導会」が開催され、全会員および社団外柔整師対象に学術実技研修、全国健康保険協会三重支部・三重県国民健康保険団体連合会・本会保険部による保険集団指導会、特別講演が行われています。特別講演は今後一般公開講座とする予定です。

【自主審査会・国保・協会健保・労災・介護認定など各審査会への協力】

各申請書の中身を検討し適正化に協力をし、国庫金の無駄使いを極力押さえ国民の皆保険制度の存続と健全化に協力。介護認定審査会においては審査対象になる人たちへの平等性を図り、介護保険制度に協力しています。

【柔整師杯県下少年柔道大会】

県民の心身の健全な発達に関する事業として、柔道を通じて少年少女の健全なる心身の育成に努めるとともに、参加者相互の親睦ならびに柔道整復師に対する理解を深め、柔道の発展に寄与することを目的として、平成7年に始まったこの大会も今年で18回目を数えます。

毎年県内の道場・柔道教室から約400名の参加があり、小学4・5・6年生男女別、体重無差別による個人戦6部門で日整全国少年柔道大会・東海大会（個人戦・各部門上位4名）出場をめざし熱い試合が繰り広げられます。

県内で柔道を志す少年・少女たちに大きな夢を与えており、本会の公益事業の中での最大イベントであり、県内の柔道大会においても有数の大会となっています。

【各種ボランティア救護活動】

本会におけるボランティア救護、災害時などにおける医療救護活動に資する事業

本会では公益活動としてボランティア救護活動に積極的に取り組んでおり、県内の柔道大会や空手大会の救護活動・テーピング講習会の講演活動などを中心に平成23年度も年間約50件にも及ぶ救護活動を行っています。

県内市・町単位以上の大会において外部主催団体からの救護要請に対し、原則2名1組で対応しています。そのほかマラソン大会などにも対象が広がっています。

また、災害時における医療救護活動に資する事業として、三重県との「災害時における災害支援活動に関する協定」の締結を予定しています。子どもSOSへの登録も検討中です。

その他、平成23年9月から、それまで松阪支部で取り組んでいた「エコキャップ運動」に、公益事業の一環として社団全体として取り組むこととしました。

平成24年2月29日現在で、本会事務局に寄せられた累計67,200個のエコキャップをリサイクル事業者に購入いただき、その代金をNPO法人（内閣府認証）エコキャップ推進協会の「発展途上国の子どもたちにワクチンを贈る」活動に協力しました。

800個でポリオワクチン1人分、67,200個は84.0人分のワクチンに相当します。

【IT化・広報活動】

IT化として、この3月より本会ホームページのリニューアルを行い、より公益性を高めるべく、少年柔道大会・救護活動などの写真や動画を広く一般に公開できるようにし、会員ページでは過去の学会・講習会・研修会ほか本会の過去のデータから最新の情報までを速やかに閲覧できるようにしました。

また広報活動として、今までの本会会員向け共益性広報誌『三柔整たより』（1・7月の年2回）に対して、新たに平成23年9月から一般向け公益性情報誌かわら版『三重の骨組み』（3・9月の年2回）を発行し各施術所に掲示し（健康に関する情報、自慢料理・お店紹介、地元のお祭りほか）、患者さまはじめ広く一般に情報を発信しています。



今年に入り2回目の三重国体が2021年度に開催されることが決まりましたが、今後、競技力

の強化が予測され、それに伴い本会の救護ボランティア活動も活発化することが予想されます。
我々柔道整復師の活動をPRする場もさらに増

えることと思われます。

(広報員 伊藤昌夫)

岐阜県柔道整復師会

ぎふ清流国体、ぎふ清流大会に向けて

本会では平成24年9月29日から開催される『第67回ぎふ清流国体』における救護活動に向け準備を進めております。

すでに複数の競技団体から救護要請を受けており、昨年来、県内各地で開催されたさまざまな競技のリハーサル大会において、本会柔整救護委員会を中心に大会会場での負傷者の処置はもちろん、テーピング、コンディショニングなどのサポート活動を行ってきました。

〈平成23年〉

- 6月5日(大垣市)
「第23回 マルちゃん杯中部少年柔道大会」
- 7月21日～24日(岐阜市)
「第35回 全日本都市対抗テニス大会」
- 7月29日～31日(瑞浪市)
「平成23年度全日本実業団ソフトテニス選手権大会」
- 7月29日～31日(飛騨市)
「第32回 関西中学ラグビーフットボール大会」
- 8月6日～8日(下呂市)

- 「第43回 西日本大学ソフトボール選手権大会」
- 8月6日～9日(高山市、下呂市、飛騨市)
「第16回 ジャパンオープンハンドボールトーナメント」
- 8月11日～14日(高山市)
「第49回 男子・第41回女子 全日本教員バスケットボール選手権大会」
- 10月15日～17日(飛騨市)
「第47回 全国社会人サッカー選手権大会」
- 〈平成24年〉
- 3月17日～20日(関市)
「東海高等学校選抜ラグビーフットボール大会」

また、国体に引き続き10月13日から開催される『第12回 ぎふ清流大会(全国障害者スポーツ大会)』においても、要請を受けている車椅子バスケットボール、知的障害バスケットボール、アーチェリー、卓球の救護活動にも対応できるよう、昨年、山口県で開催されていた「おいでませ!山口大会(全国障害者スポーツ大会)」の会場へも足を運び、その準備に万全を期しております。

(広報員 大橋好一)



〈表紙解説〉
三ッ滝
(社)岐阜県柔道整復師会広報部長 大橋好一
岐阜県飛騨地方の下呂市小坂町は、5m以上の滝が200カ所以上もある、日本一滝が多い町です。
小坂町にある巖立公園から滝見遊歩道を歩いて5分ほどに「三ッ滝」、さらに奥には「あかがねとよ」「唐谷滝」日本の百名滝である「根尾の滝」があります。
三ッ滝は、名前のとおり上段・中段・下段と三段の滝で、落差が約25m。なかなか迫力があり、全国の滝めぐり愛好家には有名な滝でもあり、滝の脇には円空上人ゆかりの不動明王が祀られてあります。
青葉の頃には流れ落ちる水の音を楽しみ、夏には涼を求め、秋には滝を囲む紅葉で自然を楽しむことができます。

第1回 柔道整復国際シンポジウム開催

学術部部員 酒井 重数

この国際シンポジウム開催の契機は、富山大学と大学間協定を交わしているベトナム軍医医科大学研究者と(公社)日本柔道整復師会(以下日整)がモンゴル国にて実施している日本伝統医療(柔道整復)普及事業の縁により、モンゴル国から来日している研究者との交流の中で柔道整復が話題となり、モンゴル国での柔道整復術の有用性、信頼性をベトナム国留学生に話したところ、帰国後、ベトナム国健康保健省よりぜひとも柔道整復に関するシンポジウムを日本およびベトナム国、モンゴル国を交えて開催してもらいたいとの強い要望があり、実施となった。

■開催日：平成24年4月4日(水)

■会場：日本柔整会館

■シンポジスト：

学術部理事 高崎光雄

ベトナム保健省専門医官

Dr. Tran Ngoc Nghi

(トラン・ンゴック・ニヒ医師)

ウランバートル健康科学大学

伝統医学部研究員

Dr. Nyamdavaa Enkhjargal

(ニャンダヴァ・エンヘジャルガル医師)

富山大学教授 西条寿夫

国際部部員 本間琢英・根来信也

■参加者：モンゴル国・ベトナム社会主義共和国(以下、ベトナム国)の研究者、富山大学柔道整復学講座、日整役員・部員

岡本和久総務部長の司会で松岡保副会長の開会宣言の後、主催者を代表して萩原正会長は「(公社)日本柔道整復師会はモンゴル国でのJICA活動、ミクロネシアでの初動調査をはじめ本年3月7日にカンボジアにおいて、柔道整復術を紹介する目的の『第3回カンボジア国際セミナー』が開催され、モンゴル、ミクロネシア、カンボジアに加えベトナムが柔道整復に関心を示している。各国の地域医療の質を高め、それぞれの国民の医療と福祉に貢献することが柔道整復の使命であり、実践するための機は熟している。このような環境の中、国際シンポジウムを柔道整復発祥の日本で行うことの意義は非常に高く、ぜひともこのシンポジウムを有意義なものにしてもらいたい」と挨拶した。

次に実行委員長である木山時雨学術部長が英語で挨拶した。

続いて富山大学大学院、西条寿夫教授より「“柔道整復”のキーワードにて複数の国の研究者が集い、国際学会を開催する意義は非常に高い。伝統医学は欧米では医療費の抑制効果が高いことや著明な鎮痛効果が期待されることから、各国が競って治癒メカニズムの解明を精力的に行っている。医療インフラが確立されていない国では、伝統医療が医療の中心として用いられ、高齢化社会の我が国では高齢者に対する柔道整復術の活用が期待されている。そのような環境



の中、開催される本シンポジウムはまさに好機到来であり、柔道整復飛躍の契機となってもらいたい」と述べた。

最後に、今回は公務で出席できなかったベトナム国健康保険省伝統医学局局长 Pham Vu Khanh（パーム・ヴィ・カーン）氏より「貴会でのモンゴル JICA 活動の報告、成果からぜひ、我が国においても柔道整復の技術と理念を広げる必要があると考えており、今回のシンポジウムを機に交流を深めたいと考えており、次回のシンポジウムはぜひ、ハノイで開催してもらいたい」とのメッセージを頂戴した。

【シンポジストによる発表】

■第1席：学術部 高崎光雄理事

「柔道整復の紹介ー保存的療法の可能性ー」

高崎理事は、我が国における保存的療法の特徴を本邦初の整骨、接骨の記載がある養老律令（718年）から紐解き、陳元賛（1578～1671）による活法と殺法の伝承、18世紀中頃における整骨・接骨術各派の隆盛をそれぞれの特徴を交えながら紹介し、最後にこれからの柔道整復の将来における「学」、「術」、「道」の重要性を述べた。

■第2席：トラン・ンゴック・ニヒ医師

「国民の健康と治療のためのベトナム伝統医学」

トラン氏はベトナム国における伝統医学、特に教育システムについて講演され、「ベトナム国では大学に伝統医学を教授する学部が存在し、現在34名の教授が学生の指導ならびに研究活動に勤しんでいる。

現在、ベトナム国では中国、韓国、日本、オーストラリア、インド、スイス、ポーランドから伝統医学に関連のある専門家、研究者を召還し、伝統医学のネットワークを構築する作業を行っている。ぜひ、歴史、伝統ある日本の柔道整復師の専門家も交えて今後は発展していきたい」と日本の柔道整復に高い関心を示されていた。

■第3席：ニャンダヴァ・

エンヘジャガル医師

「モンゴル伝統医学の現状と将来」

モンゴル伝統医学は、古代のインド医学やチベット医学を基礎として発祥し2500年の歴史を有している。現在は国立ウランバートル健康科学大学附属伝統医学大学で、教育研究機関は伝統医学部6年制、大学院博士課程4年制、修士課程2年制が設置され、モンゴル国伝統医学の教育と研究の中核機関として活動しているとの紹介があった。

■第4席：国際部 本間琢英部員・

根来信也部員

「モンゴルにおける日本伝統医療の効果についてー柔道整復術普及事業の報告ー」

平成19年6月に創設された日本柔道整復師会国際部の活動目的や意義、公益社団法人としての国際事業の重要性の話に引き続き、平成18年から実施しているモンゴル国への柔道整復術普及事業が NGO から JICA へ移行した件、この事業の評価を客観的に伝える外務省やモンゴル当局からの報告について熱く語った。

次に平成23年9月に JICA と草の根技術協力を5年計画で契約した内容や、モンゴル国各地の医療機関で継続的に柔道整復術を用いた外傷治療が一般的となることを上位目標と位置付けていることや、モンゴル国内における柔道整復術の指導・普及がモンゴル人のみにより可能となる状態になるまでをプロジェクト目標に掲げていることなどについての説明があった。

■第5席：西条寿夫教授

「柔道整復学講座の紹介」

現在、富山大学大学院柔道整復学講座で行っている研究の内容、今後の課題、将来の展望についての報告があり、「現在、富山大学とモンゴル国立ウランバートル健康科学大学ならびにベトナム国立医科大学との間で大学間協定を締結し共同研究および人材交流を積極的に行って

いる。モンゴル人、ベトナム人と我々日本人は同じアジア人としてアジアのため、そしてそれぞれの自国民の医療と福祉の向上に努めなければならない。その目的のためには伝統医学を用いることが最適である。

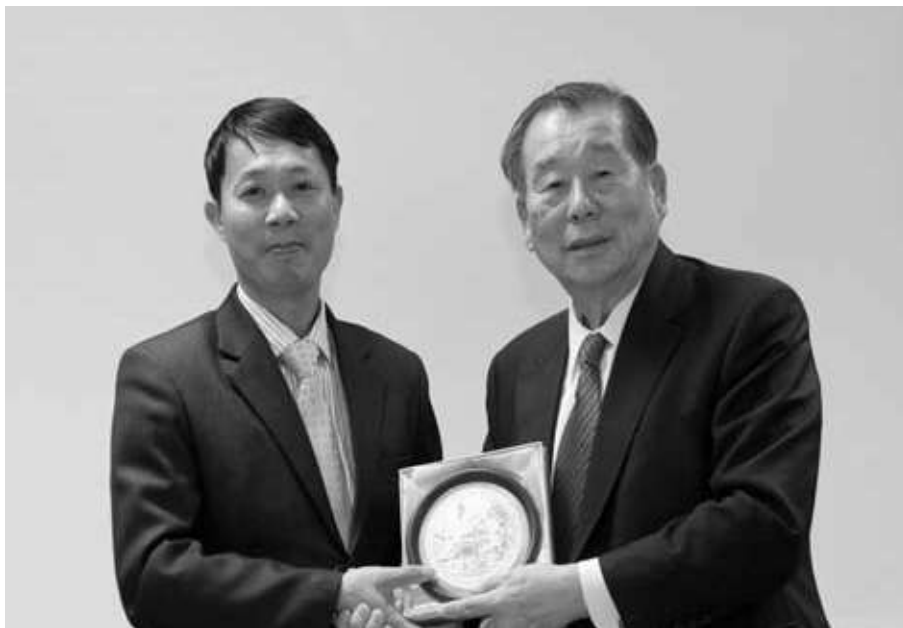
しかし、有効な伝統医学の活用にはそれぞれの伝統医学のサイエンスとエビデンスが必要であり、それらの糸口を解きほぐす手段として国際学会、国際シンポジウムの開催は非常に重要である。ぜひ、今後も（公社）日本柔道整復師会を軸に定期的に国際学会、国際シンポジウムが開催されることを願います」と述べられた。

【感 想】

僅か3カ国での柔道整復を中心とした伝統医学に関するシンポジウム、交流会であったが、熱気溢れる意見が交わされた。「成長著しいアジア諸国において国民の医療と福祉の向上のためには伝統医学の存在が重要」とのモンゴル国、ベトナム国からの提言があった。

このことは超高齢化社会を迎えている我が国において、医療の一翼を担う柔道整復師が日本における医療と福祉の向上のためには重責を担っているとの確信を得たシンポジウムとなった。

次回はハノイでの開催を約束し、固い握手にて第1回柔道整復国際シンポジウムを終了した。



▲トラン医師より萩原会長に記念品



◀ベトナム・モンゴル国両国研究者と共に

私たち柔道整復師は 全国各地で活躍しています。

健康づくり（公開健康講座）、防災・救護、
スポーツボランティアなど

●—講習会・公開健康講座・学会—●

群馬県

一般公開の生涯学習講習会 東日本大震災救護に感謝！

2月12日（日）、平成23年度第2回生涯学習講習会を群馬県農協ビルで開催した。

特別講演は公開講座として、前橋赤十字病院高度救命救急センター長の中野実先生により「群馬県ドクターヘリについて」と題して講演が行われ、一般聴講者と会員併せて164人が受講した。

中野先生は「前橋赤十字病院では、患者さんの治療も行っていますが、災害が起こったときに出勤して行き、そこで医療を展開するのが本業（災害救護）です」と挨拶され、昨年3月に発生した東日本大震災の救護に際する群馬県接骨師会の先生方の多大な協力に感謝の言葉を述べられた。

会員による実技講習は、武藤和浩会員が「金属副子を利用したベンネット骨折の固定」と題して、従来のものをより発展させた固定法を発表した。

会員による活動報告は、田島隆行会員が「日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト」のメンバーに入り、モンゴル国での活動内容をリアルに語った。

■特別講演「群馬県ドクターヘリについて」

ドクターヘリ活躍の舞台裏

現場に救急科医師を派遣

「ドクターヘリの実際の目的は患者さんを早



▲講演する中野先生

く病院へ搬送したり、遠くの病院へ搬送することではなく、現場に救急科医師を派遣し、重症度・緊急度の高い救急疾患患者に対して現場で早期に治療を開始します。早期診断を行うことで救命率向上、後遺症軽減を図るシステムです。

ドクターヘリにより、死亡率を27パーセント、重度後遺症を45パーセント削減。急性心筋梗塞（再開通処置）では発症から90分、脳卒中（血栓溶解療法）は発症から180分、心肺機能停止は3～5分、多発外傷・交通事故（止血術）では受傷より60分以内の早期治療が重要です。

昨年1年間の疾患は、総患者509人のうち、外傷が59%、心大血管疾患が13%、脳血管疾患が13%、その他が17%となっています。

平成23年1月1日～同年12月31日までの搬送実績は総患者579人のうち、240人（約4割）がUターン、339人（約6割）がJターンとなっています。

昨年1年間の運航実績は、809件の要請（2.2件／日）に対して出動が618件（1.7／日の出動）

となりました。

5分以内に出勤することを目標にしているため、病院屋上にヘリは常駐。現場にヘリが着陸後、先に現着している救急車に道具を持参。一般的に救急車の中が救急外来となります。15分から20分程度治療し、これが一段落し、患者さんの状態が安定したら病院を選定し離陸します。

県内を20分以内、約200Km/hでカバー。モニター・人工呼吸器・徐細動器など、ヘリには高度な医療器材を搭載しています。

街中などヘリの着陸できない場所を考慮して、群馬県内には600ヶ所のHP（ヘリポート）が準備されています」と述べられ、医療施設への患者さんの収容や70歳男性の負傷例などをスライドを使い詳しく説明された。

■会員による実技講習

武藤会員は「第1中手骨基底部骨折は比較的整復は容易であるが、固定維持が難しい。従来の固定法は、実生活の中で何らかの形で手指を使ってしまったときに、母指や手首周辺に痛みを感じてしまう」と述べ、母指を通すために工夫して作成した金属副子を骨折部基部から中手骨掌側に副子を当てテープ固定。

「従来外側に沿って当てていた副子は、ふとした拍子に物に当たってしまうこともあり不安定であった。金属副子を掌側につけることにより、物に当たる心配も軽減し、且つ他の指を動かしても患部に痛みを感じづらくなる。また、金属副子を母指MP関節周囲に引っ掛ける形にもなり、固定も維持しやすい。よって患者さんにとって生活もしやすくなるのでぜひ活用して欲しい」と説明した。

■会員による活動報告

田島会員は、まず、モンゴル国指導者派遣についての事業の経緯と意義について説明。

「今回巡回したのはバヤンウルギー県とダルハン県の2か所。両会場とも柔道整復学を学ぼうという熱気にあふれ、定員オーバーし立ち見が出るほどの所もあった。『日本伝統治療指導者育成・普及プロジェクト』は国が認める事業とういことで、非常に大きな公益性を有する事業でもある。ただ、国のスキームを使うことは簡単にできるものではなく、さまざまな方々の

支援・協力が必要となり、担当者の苦労は並大抵ではない。『力を結集して世界につなげよう』を合言葉に今後とも、日整役員の先生方、また会員の先生方のご支援を切にお願いしていきたい」と述べた。

（広報員 永井 毅）

千葉県

第3回 県民公開講演会

平成24年2月5日(日)JR千葉駅に近く、一般の方がアクセスしやすい京葉銀行文化プラザにおいて、公益社団法人移行を見据えての県民公開講演会が、本会主催・公益社団法人日本柔道整復師会協賛・千葉県および社団法人千葉県医師会後援により開催された。

福島義男生涯学習委員の司会、田中徹二副会長の開会の辞で会は進行、椎名晴彦生涯学習委員長より講師紹介があり、岡本和久会長は挨拶の中で「私どもは柔道整復師という職業で、接骨院・整骨院を通じて皆様の健康・福祉のお手伝いをさせていただいております。また本日のような健康・医療に関する情報を提供することで、さらに皆様の健康管理のお役に立てればと考えております」と述べた。

■講演

「気持ちの良い排泄ケア」

日本コンチネンス協会会長 西村かおる先生

先生はまず、「幸せとは？」の設問を設けて、答えの一つに健康があり、人が生を受けてから



▲講演する西村先生

死ぬまで健康に過ごすための要素「快食・快眠・快便」の中での1つのファクター“排泄の快適性”を上げ、私たち自らが実践できる排泄ケアについて講演された。

「コンチネンスとは排便・排尿の自制（禁制）、お漏らしをしないことやそのしつけ、特に高齢者がその訓練を受けるときに用いる。

排泄という行為は、人が生を受けた限り死ぬまで毎日繰り返すものであり、気持ちよく排泄できることは、気持ちよく生きていることに他ならない。

健康な成人の1回の尿量は180ccより多い、健康な成人の1回の排便量は約200g、排便は我慢すると便秘を誘発するが、排尿は早めに排尿を繰り返すと膀胱が萎縮しキャパシティが少なくなるので、ある程度ガマンしたほうがよい。

成人の女性の尿失禁は花粉症より多い。肥満と出産回数と失禁は関係する。これは解剖学的な宿命である」。

骨盤底筋体操のすすめ

そして本日のメインテーマ「尿・便失禁は体操で治せる」に関し次のように説明された。

「人は皆年齢を重ねるにしたがって筋力が衰える。排泄にもっとも関わる筋肉は骨盤底筋群であり、この筋群とは、骨盤の底で膀胱や子宮、直腸などが下がらないようにハンモック状に支えている筋群である。その収縮力が弱まると、腹圧性失禁・切迫性失禁の原因になってしまう。

骨盤底筋体操は失禁予防の必須要項であり、仰臥位・腹臥位・座位・立位と、いかなる体制であれ、時と場所を選ばず、また人には知られず実践できる体操であり、継続によりその効用は多方面に及び、大である」。

そして聴講者も参加し、実際にその体操を実践した。

閉会の辞で高橋副会長は「人が幸せに生きていく上での排泄の重要性を認識させてくれた西村先生と、多数参加していただいた一般聴講者へのお礼、そして比較的高齢者の多い我々の診療現場でも、この情報を伝えて超高齢化社会のお役に立ちたい」と述べ、講演会は盛会裏に終了した。

（広報員 渡辺 勇）

神奈川県

平成23年度新入会員学術講習会

平成24年3月31日(土)、(社)神奈川県柔道整復師会会館大ホールにて、標記講習会兼公開講座が開催されました。89名が出席され、午後6時から学術部の司会進行による開会の辞で始まりまし

た。まずは〈演題1〉「柔道整復術における脱臼整復法『肘関節・股関節・顎関節』」として、肘関節は原壮嘉学術部員、股関節は齋川治利本会相談役、顎関節は齋藤武久学術部長の3名でそれぞれの整復法について実技を交えて講習を行いました。

齋川（元会長）相談役は故藤沢光師（副会長・相談役）門下、齋藤部長は故齋藤武雄師（会長・相談役）長男、ならびに原部員は故及川金三郎師（副会長・相談役）故及川悦博師（川崎北支部長）門下と3氏ともに川崎地域から県内外に沢山の子弟を養成排出した名門接骨院の接骨技術の継承者です。その長年の経験の中で培われた貴重な技術を惜しみなく本講習会で披露されました。

続いて〈演題2〉「肘関節脱臼・股関節脱臼の運動療法」では、医療法人社団こうかん会日本鋼管病院リハビリテーション科技師長で、医学博士・日本理学療法士協会認定専門理学療法士の川島敏生先生に、演題1と連携した実践的な後療法をご指導いただきました。新入会員のみならず先輩先生方にも参考にさせていただける内容でした。

質疑応答の後、午後8時に閉講となりました。



▲齋川相談役(左)と川島先生

参加された会員は土曜日の就業後で、お疲れの中、お集まりいただきましたが、明日から日常の施療に役立つ大変有意義な講習会となりました。

(広報員 白鳥輝夫)

東京都

中学校武道必修化への対応(2)

—指導用テキストの作成／ 派遣指導者講習会開催—

日整の『はつらつ』4号「輝ける未来への取り組み」のコーナーで(公社)東京都柔道接骨師会から「中学校武道必修化に対する対応」を紹介したが、当会では、東京都より認められた当会自身の公益性に加え、青少年育成をする上で最も必要とされる精神性、柔道(武道)修得の場での安全性をも実現可能とする柔道の専門家による指導を徹底するため、競技としての実技だけでなく、精神性や道徳性の徳育に重点をおき、外傷予防、事故発生時の救護処置の対応をも可能なものとするため、各中学校からの要請に実際に対応する派遣指導者の講習会を平成24年3月4日(日)に開催した。

講習会では、派遣指導者の意思統一・指導内

容の統一を計るため、武道であるからということで、相手を倒すのではなく、受身を中心として自分自身を護るために必要な柔道の極意を中学生に習得してもらうため、学年別に段階的に習得すべき項目などを網羅した指導実施日程などをも盛り込み、また、武道の精神性は『自他共栄』にあり、相手をも救える力を備えること、さらに、全力をもって周りの人達、地域社会のために対応する『精力善用』をも伝える内容を網羅した「指導用テキスト」を作成した。

内容は図解や写真を多く使用し、短時間に意思統一が可能となるよう工夫を施した。

また、指導に当たる当会会員のみならず、全国の柔道整復師諸氏へも広く周知し、本指導内容の統一性をご確認いただきたいと願う。

また、都内で中学生のお子さんを持つご父兄にも、本指導内容をご覧いただきたく、都柔接ホームページの「継続中イベント紹介」のページ(http://tjs.or.jp/news/budou_hissyuuka_03.html)より指導用テキスト(PDF)のダウンロードを可能とした。ぜひ、ご確認いただきたいと思います。

(広報員 新井 宏)

新潟県

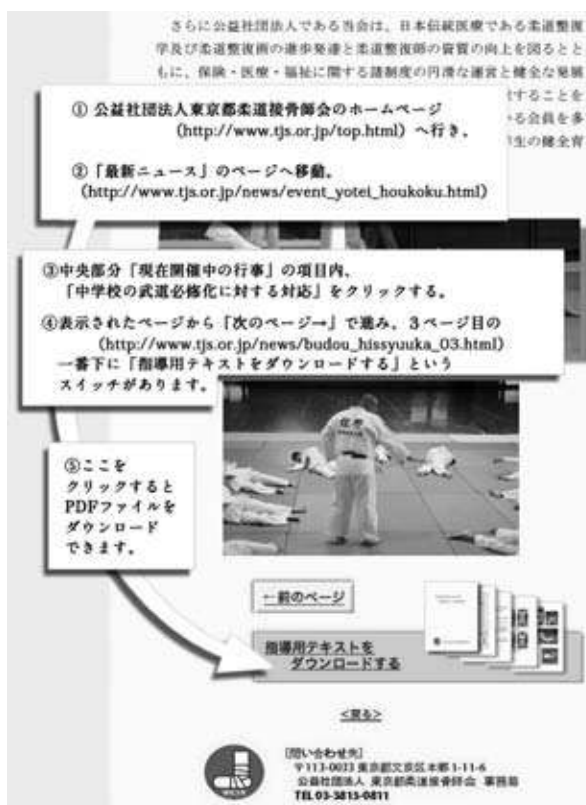
平成23年度 学術研修会

平成24年2月26日(日)新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟にて、平成23年度学術研修会が開催されました。今回の学術研修会は6月に長野県にて開催予定の(公社)日本柔道整復師会北信越学会会員論文発表の県内選考を兼ねて行われました。

なお、一般論文発表のほかに実技論文発表の応募がありました。

司会進行は伊藤学術担当理事が行いました。

最初に、金谷隆史会員が、「マッケンジー法による腰痛治療法」と題して、日ごろ取り扱うことが最も多い腰痛に関して、その理論を基に診療の中で診断、治療をチャートに沿って行うこととし、医療提供者はアドバイザー、アシスタントになり、患者は、アドバイスと補助を受け「自分で問題を解決する」方法で良好な成果が得られたと発表しました。





▲発表する金谷会員



▲実技発表する大橋会員

続いて、実技論文として、大橋保会員が「半月板ロッキングに対する整復法—半月板損傷を伴う2症例—」の発表を行いました。

大橋会員は、平成20年に「膝内障（半月板ロッキング）に対する整復手技の一考察」という演題で発表されており、今回は従来の整復方法では対応できなかった難治性の嵌頓ロッキングの症例に対して研究された整復方法を、実技を交えて発表されました。

その整復方法は関節の機能を知り尽くした技で私たち柔道整復師の真骨頂と思わせる内容でした。

後日、この2題が本年度の北信越学会の代表論文に決定されました。

(広報員 中條貴之)

石川県

学術講演・県民公開講演会 「救急医から見た外傷、 その疼痛管理」

平成24年2月19日(日)、石川県地場産業振興センターにて、金沢大学附属病院集中治療部部長の谷口巧先生をお招きし『救急医から見た外傷、その疼痛管理』と題し、本会主催の県民公開講座・学術講演会が開催されました＝写真下。

谷口先生は、柔道整復師の専門分野とは少し異なる、救急患者の痛みを例にして非常に我々が遭遇しやすい痛みを、別の角度から見た症例で次のように詳しく話されました。



「ICU、集中治療室が私の職場で、鎮静、鎮痛では最先端の部署です。皆さんの専門分野とは少し異なりますが、救急患者の痛みについて仮想のお話をさせていただきます。

46歳男性。左肩が痛くなり、レントゲンを撮ったが異常がなく、寝違いからくる肩痛と言われ、治療院へ通い、いったんよくなったが、また非常に痛み出した。ここで注意していただきたいのは、痛みを感じる神経は複数の損傷がある場合、一番痛い所だけを感じるのです。

肩が痛くても、原因は肩だけではありません。救急搬送されて来たその方は急性心筋梗塞でした。

46歳男性。通勤途中にバイクに轢かれるも、さほど痛みもなく、そのまま職場に向かい一日中仕事をしました。左のわき腹を押さえると痛



いが大したことないと言って、帰りに接骨院に寄り、その晩、自宅で亡くなりました。神経は痛みを感じると、逆にその痛みを抑制する刺激が出て自覚がないときがあります。その人は脾臓破裂でした。

40代男性。仕事中、首が痛くなり肩も凝ってきた。休憩したら楽になったが、また痛くなったので帰りに接骨院に寄って、待合室で意識がなくなり救急車で搬送された。脳血管障害のくも膜下出血でした。嘔吐を伴う激しい頭痛が典型的な症状ですが、後頸部が硬くなり痛みが出る場合もあります。

82歳女性。腰痛、下肢の痺れがあり接骨院で電気をあてていて、突然意識を消失した。冬に多い急性大動脈解離でした。大動脈が破裂すると心筋梗塞などで死に至る場合があります。その多くが背中や胸の激痛や、足の痛み、シビレを感じます。

今日は注意が必要な患者さんの例についてお話ししました。このような事態はしょっちゅう起こるものではありませんが、一度は遭遇することもあるかも知れません。

町の開業医がどんどん少なくなっている現在、患者さんはさまざまな痛みを訴えると思います。その部分の痛みだけでなく、それ以外の痛みの具合も調べてください。

状況をみて必要ならば躊躇せずに救急車を要請してください。そして救急車が来るまでの間も、救命措置をしっかりとってください。その措置ができるように日ごろから訓練しておくことが大切です。それによって回避できる危機があるはずです」。

(広報員 佐藤裕之)

愛知県

“銀春謳歌”—シンポジウムを初開催— —第6回県民公開講座(第77回会員研修会)—

2月19日(日)、午前9時30分から12時15分まで、本会主催の第6回県民公開講座が名古屋市中区の東建ホールで開催された。

過去の公開講座は主に有識者の講演という形で行われてきたが、今回はシンポジウムという形式で開催された。

メインタイトルを「銀春謳歌！人生まだまだこれから」とし、テーマの「今後の介護予防のあり方」に沿って3つの講演と一つの報告、パネルディスカッションが行われた。

【基調講演】

- ・遠藤英俊先生（国立長寿医療研究センター内科総合診療部長）
「健康長寿をめざす」

【講演】

- ・伊神雅彦氏（名古屋市健康福祉局高齢福祉部認知症対策・地域ケア推進室長）
「名古屋市の介護予防事業の展開について」
- ・鈴木俊夫先生（日本口腔ケア学会理事長）
「美味しく食べる・食べられる～視点！口腔ケア～」
- ・馬場正美先生（医療法人善常会栄養科長）
「『生きる力』を引き出す在宅・地域での栄養サポート」

【報告】

- ・機能訓練指導員研修協議会委員長

長谷川貴一

「柔道整復師が行った運動器の機能向上訓練の成果—名古屋市介護予防事業実施報告—」

【パネルディスカッション】



■調査結果を発表する場として企画

この公開講座は従来、学術分野の講師をお招きするということで学術部の主導で行われてきた。しかし今回は機能訓練指導員研修協議会に主管を移し企画された。

一昨年9月、柔道整復師が行う機能訓練の有効性を検証するために、本会では県下7市町85名の会員から特定高齢者1,334件のデータを集めて運動器の機能向上訓練1クールごとの身体機能の変化を調査し、その結果を昨年8月の日整介護保険担当者会議で報告した。

結論的には、身体機能の維持・改善が見られ訓練が有効であることが示唆されたものの、今後研究を行う意義が示されたということにとどまった。その一因としては、機能の測定方法が自治体ごとに異なっており、また同一自治体内でも会員ごとにバラツキがあり、データ取りが不十分であったことが挙げられた。

そこで愛知県では日整にも人的・資金的協力

を要請して、昨年6月から約3ヶ月間、名古屋市で再調査を実施することになった。

一つの自治体内ということで測定方法が統一でき、しかも多くのデータを集めることができるという理由で、全国でも先行している名古屋市の事業が適当であるとの判断からである。

その調査結果を発表する場として今回の県民公開講座が当てられ、協議会が主管となって内容が決められた。

また二次予防事業そのものを広く県民にってもらうことも本会の公益性を高めるために意義あるものと考え、自治体代表者はじめ事業に関わる職種の代表者らに講演を依頼した。

柔整業界に理解を示され、また日整でもお馴染みの国立長寿医療研究センターの遠藤英俊先生に基調講演の講師とパネルディスカッションのコーディネーターを依頼して、何度か足を運んで講座のテーマや進め方などをご指導いただいた。

本会会員で日整介護対策課員でもある三谷誉会員には演者の人選を担当してもらった。

また事前に、中日新聞に開催広告を載せ、ポスター1,200枚と参加申込書をつけたチラシ5,000枚を作成し、851名の会員や県下の43保健所・135地域包括支援センター、219のコミュニティセンター、その他の関係機関に配布して集客にも努めた。

この日は名古屋の最低気温がマイナス3.6度と非常に寒かったにもかかわらず、早朝より104名の一般県民と会員241名の、合わせて345名が参加し会場をほぼ埋め尽くした。

日整介護対策課から細野昇、川口貴弘の2課員と、今後の県の公益事業の参考にと長野県社団より下平寛志理事（介護委員長）も視察のため参加され、また大阪より鍼灸柔整新聞の記者も取材に訪れた。

■各専門職種が一堂に会して

佐久間会長は主催者挨拶として、本会の二次予防事業への取り組みに理解をいただいている関係者に感謝を述べた後、本会や柔道整復師、介護予防事業とのかかわりなどを一般県民に説明し、この日の講演・報告の概要を紹介した。



基調講演で遠藤先生は、認知症を中心に健康で長生きするためにはどうしたらよいかを述べ



▲一般104名、会員241名、計345名が参加



▲パネルディスカッション

られた。

その他の講演では、伊神氏が名古屋市の介護予防事業を詳しく紹介され、鈴木先生は歯科医の立場から口腔ケアの大切さを、馬場先生は栄養士の立場から、栄養改善の必要性や食べることの意義などについて語られた。

長谷川会員は運動器の機能向上訓練の概要を説明し、予備知識のない県民のためにモデルを使って測定方法を紹介したあと、名古屋市での再調査の結果の一部を報告。本会が実施している訓練には一定の効果が認められ、年齢の低いうちから訓練を始めるのが望ましいと結論付けた。

後半のパネルディスカッションでは、上記の5名に三谷会員も新たに加わり意見交換が行われた。

コーディネーターの遠藤先生は絶妙な采配で全パネリストに過不足なく質問された。

特に三谷会員と長谷川会員には、「柔道整復師の個別訓練は具体的にどんなことを行うのか」、「柔道整復師の介護予防は良さそうか」、「要介護者や少し重度の高齢者に対する柔整のかかわりは何か」、「運動器の機能向上訓練は他の機能にどのような影響を及ぼしていると思うか」

など、県民に伝えたいことや報告の中で紹介できなかったことなどについて質問を投げかけて我々の事業をアピールする機会を与えていただき、主催者側として非常に感謝している。

今回の公開講座は、遠藤先生の多大なるご支援と本会役員や委員の協力を得て無事開催できた。各身体機能の専門職種が一堂に会し、県民に情報発信することで公益事業として十分な役割を果たすことができた。

また行政の担当者や専門職種との相互理解を深めることができたことは、今後の活動に大きなプラスとなる。そういう意味で公開講座初の試みとなったシンポジウムは大成功であったといえるのではないだろうか。

(広報員 長谷川貴一)

滋賀県

平成23年度 柔道整復学術大会

平成24年1月29日(日)午後1時から大津市勤労福祉センターにおいて「平成23年度柔道整復学術大会」が開催された。講師には(社)長野県柔道整復師会・磯部栄二先生を迎え「痛みに対するアプローチ」と題し講演いただいた。本会からは60名の会員が参加した。

この学術大会は、公益活動の一環として広く聴講の場を設けており、本会以外の柔道整復師の方、養成校の学生にも多数参加いただいた。また遠方にもかかわらず近畿の社団の先生方にも参加いただき、会場は大変活気のある学術大会となった。

伊部正記学術部長の開会の辞に続き、前田敏



▲モデルを使って実技する磯部先生

一会長の挨拶では、「常々申し上げているが、我が業界を取り巻く環境は大変厳しい状況にある。養成校乱立による柔道整復師の増加、開業者の増加により業界も過当競争気味である。また行政側も増大する療養費の抑制策を講じようとしている。このような環境下で打ち勝つには、やはり学術の研鑽と資質の向上が大切である。本日の講師、磯部先生は長野県の会長、日整の理事も歴任された方で、また治療に関しても素晴らしい理論をお持ちの先生であると以前から私も聞き及んでいる。今日は絶好の機会である。ぜひ、多くのことを学んで帰っていただきたい」と述べた。

講演では、助手モデルと人体模型を用い、頸椎部から軀幹、腰椎部へと移り、さらには上肢・下肢の主要な部位を実際の症例を織り交ぜながら、症状に応じた数々のアプローチ方法をわかりやすく説明していただいた。

また、先生ご自身が考案された治療用装具や器具、テーピング方法を用いることにより、早期に治療効果が得られる技術も詳細に解説していただいた。

そして考案された治療用装具や器具は、身近にある安価な材料で大変機能的に作成されており、また市販の装具にひと工夫を加えることで、より効果的な装具に仕上がるなど、参加者の大きな関心を集めていた。

今回の学術大会は、限られた時間ではあったが、我々が日々の施療で遭遇する症例を中心に詳しく講演をいただき、大変多くの事を吸収させていただいた貴重な学術大会であった。また、磯部先生の臨床に対する素晴らしい熱意は、以後、我々も見習っていかなければと実感した。

(広報員 岡田博之)

奈良県

第36回 定例学術講演会

平成24年2月5日(日)橿原観光ホテルにおいて、第36回定例学術講演会が行われました。

今回の講演会は、社会医療法人高清会香芝旭ヶ丘病院副院長の植田百合人先生と奈良県立奈良病院整形外科医長の岡橋孝治郎先生をお招きし、講演いただきました。



▲講演会場

辰己二三雄本会会長の挨拶に続き、ご臨席いただきました高市早苗衆議院議員よりご挨拶いただき、講演会は始まりました。

第1講演の岡橋先生には「膝関節周囲の疾患—手術症例を中心として—」の演題で、スポーツ障害・スポーツ外傷や変形性膝関節症などの膝関節周囲の疾患に対しての手術の適応例やその術式などを紹介していただき、また、その利点や注意点、リハビリの時期や期間などについてのお話もわかりやすく説明いただきました。

第2講演の植田先生には「腰痛の新しい理解と治療」の演題でお話をいただき、精神的要因が与える腰痛への影響や、椎間板ヘルニアに対しての手術における術後の転機について、また電気療法・手技・鍼灸などの種々の療法の腰痛を有する患者さんの満足度にどのように影響するか、またそれらが短期あるいは中・長期的にどのような効果をもたらすのかなど、国内・外でのモニタリングや報告結果をもとに説明いただきました。

今回の講演は、膝関節周囲および腰痛にかかわる疾患を中心とした内容で、翌日からの臨床にすぐに役立つ話であったこともあり、質疑応答にも熱が入り、多くを学ばせていただける講演会でありました。

本会定例学術講演会も36回を迎え、整形外科医の講師をお招きしての講演は単に見識を広げるばかりでなく、日頃の臨床の現場を振り返りさらなる技術の向上や、よりよい医療サービスを提供する糧となりえる大変意義深いものであるとも言えます。本会では引き続きこのような学術事業を大切にしていきたいと考えています。

(広報員 中川雅文)

和歌山県

平成23年度第2回合同講習会 〈学術・生涯教育・保険〉

平成24年2月26日(日)午前10時から、和歌山県勤労福祉会館プラザホープにおいて標記講習会が開催された。今回、奈良の岩井寿浩副会長、京都の栗原武弘学術部員の2名が来賓として出席された。本会の原正和会長の挨拶の後、会員による学術研究発表会が行われた。

〈発表内容〉

- (1) 運動器の損傷、疼痛マーカーとしてのフリーラジカル —フリーラジカルの生成と阻害実験の報告— 和歌山支部 南方 克之
 - (2) もし柔整師がドラッカーの「マネジメント」を読んだら 紀北支部 岸田 昌章
 - (3) 腰痛の原因と診かたの一例
手技研究会 萬谷 春弥
 - (4) 座位で行える腰部施術の一方法
海南支部 坂上 博徳
 - (5) 少年柔道選手の肘関節内側部痛—指導者から見た背負投の釣り手について—
有田支部 松本 光司
 - (6) NPO 法人を活用した介護予防事業の参入について 紀北支部 岸田 昌章
- また、今回初の試みとして、学術勉強会をお昼休憩を利用してランチョンセミナーとして開催した。北岡武彦会員が「救護活動における応急処置法」の講義をし、参加者も普段の勉強会より参加しやすいとの意見が多く、おおむね好評であった。



▲発表した会員

午後からは、生涯教育講習会で「施術所に活かす！整理収納術」と題し、宮本整理収納コンサルティングの宮本美保先生に基本的な整理収納のコツを教えていただき、また患者さん目線で治療に関する以外で、施術所で気になる所や改善方法などについて講演いただいた。細かいところまでご指摘いただき大変有意義な講演であった。



▲講演する宮本先生

続いて、保険講習会が行われ「はり師、きゅう師およびあん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費支給の適正化に向けた保険者の取り組みと県の考え方について」と題し、和歌山県福祉保健部健康局健康づくり推進課国保班長・吉増雅一氏に講演いただいた。



▲講演する吉増氏

また、木村正明副会長が「保険の現状について」で説明された。年々厳しくなる保険請求状況、個人としての適正化はもちろんですが、組織としても環境整備が急がれるときだと思います。

(広報員 佐々木正美)

兵庫県

平成23年度 学術研究会

平成24年2月5日(日)本会会館5階多目的ホールにて、会員131名、B準会員3名、学生35名、一般参加者7名、計176名の参加のもと、標記学術研究会が開催された。

東副会長の開会の挨拶の後、特別講演として愛知医科大学医学部教授の中野隆先生をお招きし、「随意運動のメカニズム」と題して、骨格筋運動をつかさどる下行性伝導路の錐体路、錐体外路について講演いただいた。

我々柔道整復師の養成機関での教本では、運動性伝導路の記載は数ページの記載しかなく、必ずしも深い理解が得られるものではないと思われるが、このたびの中野先生の講演は、随意運動を自動車に例えて解説された。

随意運動をつかさどる錐体路はエンジン、大脳基底核を中心とする錐体外路系をアクセルとブレーキ、小脳を中心とする錐体外路系をハンドルに例え、とても丁寧にわかりやすく説明いただいた。



▲講演する中野先生

今回の研究会には多くの学生も出席しており、中野先生の講演は非常にわかりやすく、随所に「こう覚えればいいですよ」と、今後国家試験などの試験を控える学生たちにとっても大変貴重な研究会になったと思われる。

特別講演終了後、休憩を挟んで会員発表が行われた。

「腰の痛みを患部以外からアプローチする」
～大腰筋・腸骨筋～

尼崎支部 本田 真一会員

「腰椎こり症の一運動療法」

阪神北支部 吉田 裕男会員

「頸椎症性神経根症の施術と対策」

阪神南支部 中田 定明会員

「足関節捻挫に対する早期復帰のための閉鎖性運動連鎖の応用」

神戸東支部 吉本 聡会員

「東日本大震災ボランティア活動報告と課題」

神戸西支部 藤本 進会員

「肩関節脱臼の整復例」

一大腿部を使った牽引整復法—

東播支部 平野 敏幸会員

「ホームページによる集患の実際」

姫路支部 中野 誉之会員

「離断性骨軟骨炎（関節内遊離体）手術後の経過報告」

西播支部 岩本 隆志会員

以上8題の会員発表があった。

近年の学術研究会は症例発表のみならず、ホームページに関する内容や震災ボランティア活動など多岐にわたり、時代を感じさせる発表内容であった。

（広報員 相江勝弘）

広島県

平成23年度 第2回定期学術講習会

平成24年2月12日(日)10時から本会会館において、平成23年度第2回定期学術講習会が開催されました。

1. 特別講演

〈講師〉

東京有明医療大学

日本柔道整復専門学校 根本 恒夫先生

■第1部

「足関節部外傷の症例と施術のポイント」

はじめに、足関節部果部骨折は複雑な動きにおいて発生し、疼痛や障害を残さないためにも機能解剖や発生メカニズムをよく理解することが肝要であると説明され、以下の順序で講演されました。

〈機能解剖〉

〈X-rayの検査及び診断の注意〉

〈整復法のポイント〉

〈固定法〉

〈後遺症と予後〉

その後、講演に沿った内容で、診断に必要な鑑別方法や徒手整復、ギプスによる交差圧迫固定法を実演され、理論と実践の両面を学べた大変有益な内容でした。

■第2部

「柔整師学校および柔道整復師会の現状」

養成学校、柔道整復師会の推移と現状、個々の柔道整復師の課題（モラル・自制心・秩序・柔道整復術の継承）について提言をいただきました。

2. 協同組合発表

「柔道整復師に関する意識調査（アンケート）の分析結果について」

昨年発足した広島県柔道整復師協同組合が、接骨院のより良い経営の参考となるポイントを知ることが目的としアンケートを行い、(株)藤井事務所の藤井好宏氏より「経営改善のヒントと方向性」と題して、講演をいただきました。

今後の課題として各接骨院で行うこと、組合全体で行うことをわかりやすく分析され、非常に示唆に富んでおり、さまざまな点で大いに啓発されました。

3. 税務講習

石川勝也経理部長より、年度別総括、経営実態、推察される原因と今後の対応、事業分野拡大などの説明が行われました。

4. 保険講習

加藤弘幸保険部長より、保険取扱や記載の確認が行われました。

（広報員 宮迫太一）

※

●—スポーツボランティア関連活動—●

石川県

「能登和倉万葉の里マラソン2012」 ケア・サポート

平成24年3月11日(日)七尾市和倉温泉周辺において「能登和倉万葉の里マラソン」が開催された。能登の里山里海を巡る日本陸連公認コースは参加者にとっても好評であり、過去最高の7,547人のエントリーがあった。

今年も七尾市からの要請により、本会から「サポート接骨石川 (SSI) 赤十字奉仕団」として45名のボランティアスタッフが参加した。

朝7時には選手が次々とサポートブースに訪れ、スタッフは最高のコンディショニングとなるようストレッチやテーピングなどを行った。石川県内で行われる種々のサポートを経験しているスタッフは、スムーズにケアを行い、選手たちを送り出した。

心配された天候も午前中は快晴で、気温は約10度にまで上がり選手たちにとって良いスタートをきることができたと思われたが、午後になると急変し気温は0度近くまで下がり、強風と雨・雪が選手たちの体力を低下させることとなった。

競技後は救護班の医師からの依頼で、全身の震えで動けなくなり担架で運ばれた選手を皮切りに、次々と低体温症の選手が運び込まれ、ブース内に入りきれない選手を廊下で処置をする



▲サポートブース

までにあふれた。救護班の医師もブースに来て選手の状態を観察するなど、救護班とともにケア活動を行った。終了時点でブースには483名の選手が訪れた。

この時期の開催を踏まえ、主催者側もサポートする私たちも低体温症に対応することを課題とする大会となった。

また、この大会は平成19年3月に発生した能登半島地震の復興事業としてスタートしたが、今年の開催は奇しくも東日本大震災の発生した3月11日となった。東日本大震災で被災した福島県南相馬市と七尾市の中学生14人がマラソンコースでたすきリレーをし、苦しくてもあきらめない走り被災地にエールを送った。

最後にサポートを行ったボランティアスタッフ全員で東日本大震災において犠牲になられた方々に黙祷を捧げ、被災地の復興を祈りボランティアを終了した。

(広報員 佐藤裕之)

愛知県

「名古屋シティマラソン2012」 で救護ボランティア活動

東日本大震災から1年目となる3月11日(日)、日本陸上競技連盟・愛知県・名古屋市・中日新聞社などの主催で「マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2012」が行われ、「名古屋ウィメンズマラソン2012」と「名古屋シティマラソン2012」が同時開催された。

「名古屋ウィメンズマラソン2012」(スタート午前9時10分)には、ロンドン五輪代表をかけたトップ選手とともに市民ランナーを含む13,114人が、早春の陽光の下ナゴヤドームを発着点とする42.195kmの公認コースをゴール目指して走った。

前身の「名古屋国際女子マラソン」の最後の大会は昨年3月13日に開催が予定されていたが、震災2日後であったため中止となった。その大会が今回、ウィメンズマラソンとして一新され



▲市街地を快走するトップ集団

で開催され、“世界最大の女性だけのマラソン大会”として、英国ギネス・ワールド・レコーズ社に認定された。

大震災発生時刻である午後2時46分、市民や関係者としてコース上の参加者が立ち止まり黙祷を捧げて犠牲者を追悼した。

うららかな陽を浴びて市街地を駆けるトップ選手や市民ランナーの姿、沿道で応援する人たちの声援…災禍のない平安に感謝。

優勝は2時間23分52秒でロシアのアルビナ・マヨロワ選手、2位は2時間24分14秒で日本人トップの尾崎好美選手（第一生命）であった。

「名古屋シティマラソン2012」（スタート午前10時10分）では大勢の老若男女の市民ランナーがナゴヤドームをスタートし街中を駆け抜けた。2010年までは秋に行われてきたが、「親しまれる大会に」と今年から“旧”名古屋国際女子マラソンと同時開催となった。

10kmの部では4,500人が参加して瑞穂競技場まで、ハーフの部では8,900人が中心部を通り白川公園まで、カラフルなウェアを着て仲間と一緒に沿道の声援に手を振ったり、写真を撮り合ったりして走りを楽しんでいた。

本会は主催者の一つである中日新聞社より依頼を受けて、会員19名が「名古屋シティマラソン2012」ハーフの部での救護・ケア活動に参加した。

白川公園内の割り当てられた場所に小林弘治事業部長の陣頭指揮にて、午前7時30分にテントや簡易ベッドなどの資材を搬入し設営をする。

午前8時30分の佐久間稔晴会長の「今日一日のボランティア救護活動をよろしく願います」との挨拶、柳田松三・森川伸治両副会長の



▲マラソン大会救護活動

激励挨拶の後に、活動準備や打ち合わせなどを行った。

全員が早めの昼食を済ませて、午前11時30分頃から受付を開始し、午後2時30分までの3時間にわたり駆け終えたランナー280名の救護・ケアなどに奮闘した。

今回は初めての活動参加とあって内容の予想ができず戸惑うことを多々経験した。

10台のベッドを用意して手技・ストレッチなどの応急処置やケアを施すも、午後1時過ぎには長い行列ができて慌てる場面や、体調不良で倒れ込んだランナーにも遭遇し、持参した担架で日赤の救護所へ会員が搬送する場面もあった。

しかしそこは事業部、慣れたもので、他のスポーツ大会の救護活動に何回も参加した経験を活かして臨機応変に対処した。また毎年行っている災害救護赤十字特殊奉仕団講習会の成果も実感した。

早朝の寒さと長時間の活動は骨身にこたえたが、午後3時には後片付けも無事終了し、充実したボランティア活動であった。

依頼があった中日新聞社には、昨年東日本大震災救援募金として本会から827万円を寄託した。過去の大きな災害のたびに、また毎年、恵まれない子どもたちのために決算総会や地区で募金活動を続け、公開講座などでの後援も依頼し、日ごろから友好な関係を構築している。

今回のような規模の大きなスポーツ大会で主催者から直接派遣要請があったことには、このような背景がある。4月から公益法人として新たに出発する本会にとって、日々の地道な活動が重要であることを示す好例ではないだろうか。

（広報員 長谷川貴一）

和歌山県

第11回 和歌山県市町村対抗 ジュニア駅伝競走大会

平成24年2月19日(日)標記大会が開催された。この大会は、今年で11回目を数え、和歌山県下30市町村の代表42チーム(小・中学生)が、紀三井寺公園補助陸上競技場をスタートし、ゴールの和歌山県庁までの10区間21.1kmを10人の選手がタスキをつなぎゴールを目指す。

昨年、東日本大震災や、和歌山でも台風災害にみまわれ、今回の大会は「地域のきずなをタスキにつなぐ」のスローガンのもと、選手たちは、地域の思いやきずなを胸にゴールを目指し、“一つのタスキ”をつないだ。

本会も、第1回大会から救護・トレーナーとして参加しており、今年は3年後の国体開催の関係上紀三井寺競技場の改修工事のため、ゴール付近の西和中学校の体育館において、走り終わった選手のクールダウン目的のストレッチや手技などのケアを行った。



▲選手にストレッチをする平野会員

毎年思うことだが、走り終えた選手は、スタート前の緊張感から解放され、「タスキをつなぐ」という責任を果たした達成感、走りきった満足感に満ち溢れ、さわやかな笑顔を見せてくれた。

(広報員 佐々木正美)



▲号砲一発！

沖縄県

第27回 NAHAマラソン・第20回 おきなわマラソンボランティア 活動

◎平成23年12月4日(日)に行われたNAHAマラソンでは、午前9時に女優の満島ひかりさんと翁長雄志大会長(那覇市長)が突く万国津梁之鐘で、23,988名がスタートした。NAHAマラソンは7回目のボランティア活動となる。

■活動内容

〈スタート前の処置内容〉

練習中の捻挫・挫傷および膝・腰・下腿・足関節部などの違和感や長時間酷使する部位の障害予防を目的に当会独自に開発したパフォーマンスアップ・テーピングの施行。

(1)スタート前の午前7時～8時半までに延べ350名のジョガーにテーピングを行った。

(2)32km地点へ移動し、ゴールに向かうランナ



▲32キロ地点での救護活動



▲多く参加したマラソンボランティア

ーにアイシング or ストレッチを400名ほどに行った。

◎平成24年2月19日(日)に行われた「おきなわマラソン」では、マラソン（一般のフルマラソン）に加え、競技部門のフルマラソン（一般部門と同時）も行われ、さらに一般・高校の10kmのロードレースも行われた。おきなわマラソンには8回目のボランティア活動となる。

■活動内容

(1) 午前7時～8時半までに延べ300名のジョガーにテーピングを行った。

(2) ゴール後の処置内容

① 10キロ・フルマラソンランナーの痙攣・

翌日の筋肉痛軽減の処置

② 〈内容〉アイシング・ストレッチング・テーピング・痙攣の医学的処置を350名ほどに行った。

当会は、ボランティア活動に際し県内にある琉球リハビリテーション学院・沖縄総合医療学院の両校の柔整科の学生にテーピング講習会を行い、大会当日に参加してもらい柔道整復師の医療ボランティアのあり方を勉強してもらった。さらに、救護・ボランティア活動を通して我々柔道整復師をもっと理解していただけるよう啓蒙活動を続けて行きたい。

(広報員 國吉正人)

《ちょっといい話》

千葉県

「子供医療費助成事業現物給付」契約、千葉県と締結！

かねてから懸案であった子供医療費助成事業現物給付の実現に向けて千葉県と交渉をつづけておりましたが、このたび田久保尚俊元県議会議長をはじめとする千葉県議会議員医療問題研究会を介し、本会岡本和久会長以下執行部の鋭意努力により千葉県と本会岡本和久会長との間で現物給付契約（受領委任払い契約）が締結され、平成24年4月施術分より医科同様、施術機関の窓口で受給券を提示することにより、受給券に記載された自己負担のみで施術を受けられることとなった。

この結果、受診者がこれまでの償還払い方式による煩雑さが払拭されることになり、子供の受診者増加が期待できることとなる。

最近の我が業界を取り巻く厳しい状況の中にあって非常に明るいニュースとなった。

(広報員 渡辺 勇)

●—介護関連活動—●

東京都

介護予防機能訓練認定講習会

平成23年12月3日(土)・4日(日)の2日間にわたり、平成23年度介護予防機能訓練認定講習会が、公益社団法人東京都柔道接骨師会会館3F大会議室にて開催された。

今回は東京都の会員と研修生を中心に、関東圏の会員、また遠方からは東北・北信越・九州ブロックの参加者を含め合計89名の日整会員が受講し、業域拡大に向けて、志のある柔道整復師が集結した会場は貴重な体験の場となった。

はじめに(公社)日本柔道整復師会：工藤副会長(都柔接会長)による開会の辞および主催者挨拶として、柔道整復師の歴史、介護を予防する事業の重要性をご教授いただいた。

続いて(公社)日本柔道整復師会理事・都柔接の橋本副会長、都柔接の辰野理事の担当役員が紹介され、その後、都柔接：澤田介護保険部員・湯川介護保険部員の司会進行のもと講義が実施された。

講義内容は(公社)日整保険部介護対策課員・都柔接介護保険部：春原部長より

- ①「介護予防と柔道整復師」
- ②「個別機能訓練・機能訓練実施計画書」、
都柔接：澤田・狩野介護保険部員より

$$\{(220 - \text{年齢}) - \text{安静時心拍数}\} \times 0.5 (50\% \text{の強度}) + \text{安静時心拍数}$$

例 年齢70歳・安静心拍数70の場合

$$\{(220 - 70) - 70\} \times 0.5 (50\% \text{の強度}) + 70$$

↓

$$(150 - 70) \times 0.5 + 70$$

↓

$$80 \times 0.5 + 70$$

↓

$$40 + 70$$

↓

=110回/分(運動時の脈拍数)

* 年齢70歳の高齢者には50%の運動強度が最適である。



▲挨拶する工藤日整副会長



▲講演する芳賀先生

③「失禁・認知症予防について」

の解説がなされ、なぜ、柔道整復師が地域支援事業に参画すべきなのか、医療と介護・介護予防の違いなどにも言及した講義が行われた。

そして、本認定講習会の講師の要でもある筑

波大学名誉教授：芳賀 脩

光先生には、各テーマ別に

「21世紀における高齢者福祉の課題」

「加齢に伴う身体のリスクマネジメント」

「運動指導の実際」

「高齢者の身体能力テスト」について熱弁の講義をいただいた。

今回はテキストに掲載されていない運動時の目標心拍数の算出についてもご教授いただいた。その内容は、

年齢に適した運動強度と心拍数の関係についてであり、前記の数式により解説された。

つまり、脈拍数100～110くらいが心筋を鍛えるには最適で、リスクも少なく、心拍数と運動強度の関係は、この計算によって成り立つものであるとされた。

さらに、高齢者に対するトレーニング強度や注意事項などを自らの経験をもとに、実技を踏まえながら丁寧に指導していただいた。

芳賀先生は高齢者の運動指導をした過去40年間で一度も事故がないという素晴らしい実績の持ち主で、その功績こそが、数多くの研究や実験を踏まえて導き出された数式をもとに法則を厳守した結果であった。

事故を起こさないことへの思いからも、運動前・中・後のバイタルチェックの重要性を熱く語られていたのは印象的であった。

また、講義の中では、都柔接各支部での地域支援事業の実際、さらに運動指導の実際について、春原介護保険部長と狩野介護保険部員、湯川介護保険部員による「現場の雰囲気を想定した協調性トレーニング」の実演も受講者全員で行い、充実した認定講習会となった。

本講習会を通して、柔道整復師が機能訓練指導員として、高齢者の健康寄与と、国の医療費や介護費用をも削減できる地域貢献を目標に、一丸となって団結することを強く願っている。

(広報員 新井 宏)

神奈川県

機能訓練指導員フォローアップ講習会

平成24年2月19日(日)、機能訓練指導員認定柔道整復師の更新に必要な単位取得のためのフォローアップ講習会が、本会大ホールにて開催されました。

講師には公益社団法人東京都柔道接骨師会理事、公益社団法人日本柔道整復師会保険部介護対策課の春原博先生をお迎えし、「地域支援事業の現状について—介護保険における柔道整復師の現状—」と題して講演をいただきました。

冒頭に3・11東日本大震災での公益社団法人東京都柔道接骨師会の緊急救護体制およびその



▲講演する春原先生

活動の報告があり「このような私たちの行動・活動を行政にアピールすることが大事であり、その状況を、しっかりと報告することが今後の介護事業の展開にも大切です」と強調しておりました。

続いて都柔接の各支部の介護事業への参入状況の説明があり、ケアマネジャーとしてよりも地域支援事業の一部である二次予防事業から介護保険にかかわるほうが、柔道整復師としての特性を活かせるのではないかとのお話がありました。

高齢者の生活習慣病の発症・重病化の予防として、「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、最後にクスリ」という言葉を引用し、1の運動を習慣づけることに導くのが我々の得意とする分野であると話されました。

前日の総会に引き続き2日間にわたって出席された会員も多数いましたが、春原講師の話術と内容に引き込まれて、その疲れも感じさせないほど皆熱心に聞き入っていました。

ひと通り講演内容を話し終えた後は、神奈川県内で支部として介護事業に取り組んでいる3支部(川崎市支部連合会、横浜市支部連合会、相模)の担当者が現況をそれぞれ報告し、春原講師からその事業について今後どのように展開させていけばよいかなど、丁寧なアドバイスをいただきました。

質疑応答にも充分時間を取っていただいた後、講師へのお礼の言葉と閉会の辞によって終了・散会となりました。

(広報員 白鳥輝夫)

長野県

平成23年度介護予防・機能訓練指導員フォローアップ講習会

平成24年2月11日(土)長野県柔道整復師会館において、介護予防・機能訓練指導員フォローアップ講習会が開催された＝写真。

各支部および各地区において転倒予防教室など、介護予防事業への取り組みが紹介され、また実技講習が行われた。

昨今、ロコモティブシンドロームをいかに予防するかという機運が高まっている。このロコモを予防するためのロコモーショントレーニングの重要性が、転倒しない環境づくりと相まって特に重要視されてきている。

我々柔道整復師がいかにこの分野に参入していくかが大事であり、またその参入の仕方が最も大事である。特に①ロコモ予備軍ともいえる人たちをどのように我々の施術所に呼び込むこ



とができるか、②サテライト方式というものをいかに確立していくか、③我々の施術所でロコモティブチェックができるように行政に働きかけ、どこの施術所でもロコモトレーニングができるよう環境づくりを働きかけていくか、④PR効果として地域での健康相談あるいは講演活動などの働きかけを行い、いかに腰痛・膝痛・肩痛などの運動指導を行っていくことができるかが、今後、最も大事である。

(広報員 松坂佳雄)

防災・救護関連活動

宮城県

県と「災害協定締結」報告

平成23年12月22日(木)、積年の思いが実り、県との「災害時における社団法人宮城県柔道整復師会の協力に関する協定」を締結することができました。

協力の内容：

- 1) 避難所及び救護所等における応急的医療救護
- 2) 被災者の緊急避難場所等としての会員施術所の提供
- 3) 医療救護班による医療救護活動の補助
- 4) その他甲(県)が必要と認める活動

当会は、1995年の阪神淡路大震災における教訓をもとに、接骨院ボランティア宮城(通称SVM)を結成。以来、今日まで16年間、「求められる柔道整復師」、「応えられる柔道整復師」を旗印に、災害時における医療救護体制を整えてきました。

宮城国体医療救護を皮切りに、スペシャルオリンピックス日本(SO日本)宮城・医療班に参入するとともに、年間約200件の、県・市町村レベルのスポーツ大会およびイベントでの医療救護ボランティア活動や、新潟中越地震、岩手宮城内陸地震への「県境なきボランティア活動」として積極的に災害現場に出向き組織力を発揮してきました。

さらに地域にあっては、会員個々人が地域資

県柔道整復師会
県と災害協定
締結
県は、社団法人「県柔道整復師会」(会長 佐々木 誠)と災害協定を締結した。協定は全12条。骨折や脱臼、ねんざをきたした被災者の応急処置や医療救護チームの補助、会員が開設する施術所の緊急避難場所としての提供など、4項目を明記した。柔道整復師は国家資格の一つ。各地で接骨院や接骨院などを開業している。震災後は各地の避難所へ、エコミックス(症状別や生活不慣れ者の



医療救護で協力
平時に向け、体をほぐす「生体運動療法」として、関節軟骨保護療法を考案した。部長は「技術を生かして方々のために、被災者の支援に協力してほしい」と語る。

◀ 河北新報 平成23年12月25日朝刊

源と成り得ることを目的に、会員相互の実践的な経験を積んできたところです。

その成果が、このたびの東日本大震災において壊滅的被災状況の中、まずは活動できる会員から、各地域の避難所や施術室の開放などで敏速に対応する一方で、いち早く「(社)宮城県柔道整復師会災害ボランティア対策本部」を設置、日整を窓口到他県からの柔道整復師会応援ボランティアの受け入れコーディネートの責任を果たすことができました。同時に当会会員によるSVMの機能回復に伴う一連のめざましい活動などが高く評価され、県より感謝状を賜るに至りました。

このたびの協定締結を大きな節目に、有事にあっては運動器系の急性・亜急性の外傷性疾患に対する、部分医療を専門(業)とする、私たち柔道整復師の医療救護はもとより、エコノミー症候群および廃用性症候群や生活不活発病などの予防、ならびに機能訓練指導員としての身体機能回復訓練などにおいて、その社会的義務を果たしていくべく、会員一同、いっそう気持ちを引き締め、決意を新たにいたしております。

(広報員 芦澤卓也)

兵庫県

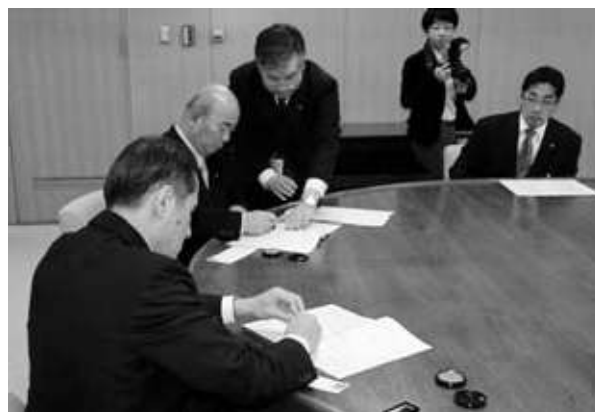
加古川市と『災害時における 応急救護活動協定』を締結

平成24年2月20日(月)、加古川市役所秘書課会議室において、本会と加古川市との『災害時における応急救護活動に関する協定』が結ばれた。

調印式には、樽本庄一加古川市長と本会の萩原隆会長の間で、協定書に調印がなされ、岩本芳照総務部長・相江勝弘広報部長・外林雅夫監事も同席した。

本会では、阪神淡路大震災後の平成9年に兵庫県と神戸市の間で、同協定が結ばれて以来、市町村単位での協定は2例目となる。

これまで加古川市において、『加古川ツーデーマーチ』・『加古川マラソン大会』でのスポーツイベントで、救護ならびにコンディショニング活動を行ってきており、その評価も踏まえ加古川市と今回の協定に至るまでには、スムーズに調印式までに調整がなされた。



▲調印式(左から：萩原会長、樽本市長)

樽本加古川市長からは、「これまで県内民間団体との物資の協定は結んできたが、医療関係のマンパワーの協定は初めてのことであり、非常に期待しております」と調印式場でコメントされた。

当日は、毎日新聞と神戸新聞の2社も取材に来られ、翌日の地方版に大きく報道された。

2012年(平成24年)2月21日 火曜日 第2版 神戸新聞



▲2012. 2. 21 地元 神戸新聞記事

平成23年度 『兵庫県合同防災訓練』

平成24年2月26日(日)兵庫県朝来市において、『兵庫県合同防災訓練』が行われた。

このたび、上記合同防災訓練に参加し、避難者の応急処置ならびに地域住民に対して災害時における応急処置講座を開催した。

この訓練は、当初昨年9月に予定し、台風12号の接近のため延期されたものである。

日 時：平成24年2月26日(日)

9時～12時(集合8時)



▲応急処置室メンバー（柔道整復師会・看護協会）



▲新聞紙を用いた固定具の作製

場 所：朝来市立山口小学校

主 催：平成23年度合同防災訓練実行委員会
（兵庫県、豊岡市、養父市、香美町、新温泉町、朝来市で構成）

参加機関：約70機関（消防、警察、自衛隊、国交省、ライフライン関係機関、応援協定締結団体等）

参 加 者：根来信也（学術部）・田中和明（学術部）・藤井敦志（学術部）・山下純子（学術部）・西村耕作（但馬支部）・平山克士（但馬支部）

【活動内容】

1. 応急処置

前線による大雨が続き、朝来市内の円山川の氾濫や、各所での土砂崩れにより、大きな被害が発生したとの想定で避難準備情報が発令され、住民避難勧告・発令により、避難所（山口小学校）への移動が始まり、避難住民随時受け入れが9時に始まるため、本会関係者は8時には避難所の山口小学校1階『応急救護所』にスタンバイした。

要応急救護者（模擬患者6名）の内、3名（男性2名、女性1名）の要応急救護者（肩関節脱臼・橈骨遠位端部骨折・足関節捻挫）に対応を行った。要応急救護者の中に聴覚障害者がおられ、筆談・手話（通訳）で問診から応急処置まで行った。

2. 応急処置講座

第1回目：9時50分～10時30分

第2回目：10時40分～11時20分

※参加者地域住民25名×2回＝50名

内 容：①RICE（ライス）処置とは？

②災害時のケガの応急手当

③三角巾の活用法

④質疑応答

→直接圧迫止血法

ケガ（骨折など）の固定法

【総 評】

昨年度より訓練に参加しており、本会学術部が中心となり資料を作成した。

橈骨遠位端部骨折・肩関節前方脱臼・足関節捻挫の負傷者（模擬患者）の応急処置を行った。その際、循環・神経障害や鑑別を十分に行った上、整復・固定を施し、固定終了後には同じく循環・神経障害の有無確認ならびに日常生活についての指導を行った。また、応急処置講座では、地域住民に対してRICE処置の基本を説明し、身近にあるスーパーの手提げ袋や新聞紙などを用いて、固定実習を行った。

今回は昨年度の反省点である女性負傷者の対応は女性会員が固定を行い、かつ処置を行う場所についても配慮した。そして、東日本大震災における救護ボランティア活動の経験を看護協会とともに地域住民にフィードバックできたことは地域防災力向上に大変有用であった。

災害時には行政関係・病院関係・その他、横の連携が重要であり、特に避難所には保健師・看護師が中心となり巡回を行うため、看護協会と更なる連携が必要である。

平成24年2月には加古川市と『応急救護活動における協定』を締結し、ますます災害時における防災訓練が重要になってくる。

次年度は本会で、防災力向上事業（AED講習会含む）を企画していきたいと考える。そして、訓練に参加し、問題点を改善しながら大規模災害時における柔道整復師の災害医療ボランティア活動の充実を図っていきたい。

（広報員 相江勝弘）

私の夢

向上心をもって…



米田柔整専門学校

3年 宮村 栞

私が、柔道整復師の専門学校に入るきっかけとなったのは、高校1年生のときに始めた接骨院のアルバイトでした。

初めは、部活のない日に行って、掃除をするだけでした。高校2年生になって進路について考えるようになったころ、今まで掃除しかしていなかった私に接骨院の院長先生が、受付業務や先生達の補助など、患者さんと触れ合う機会を与えてくださいました。

その際、患者さんとあいさつをしたり、感謝の言葉をうけたりして、接骨院の業務のすばらしさや楽しさを知りました。また、患者さんから先生と呼ばれる接骨院の仕事に興味を持ちました。

私は高校を卒業し、院長に紹介していただいた柔道整復師の専門学校に入

学しました。

学校で講義を受け、終わってから接骨院で手伝いをさせてもらいながら臨床的な勉強をさせていただきました。

学校の講義で学んだことを実際の現場で直接見ることができ、学校では得られない経験をすることができました。問診の状況、患者さんの症状、整復が行われている現場、学生である私にとっては恵まれた環境でした。

専門学校に入り、3年生になった私は就職について考えるようになりました。

悩み抜いた結果、6年間お世話になった接骨院ではなく、違うところへの就職を決めました。

理由は、長年いたことで、他の現場をまったく知らないことへの不安があったということと、慣れ親しんだこと

で自分自身に甘えがあったということでした。社会へ出るこの機会に、自分にもっと厳しくしていきたいと思いました。

私にとつての最終目的は独り立ちし、開業することですが、今はその目的に向かって、たくさんさんの知識や技術を身につけ、患者さんとの信頼関係を築き、頼りにされるような柔道整復師をめざしたいです。

そして、地域の人からも愛されるような柔道整復師になりたい、これが、6年間お世話になってきた先生たちをみて、私が感じたことです。

1年後の自分は今よりもっと、3年後はもっと、進化しているような柔道整復師でありたいです。「何年たっても向上心をもって仕事をする」ということが私の夢です。

腰痛について —姿勢と背骨—

埼玉県 大河原 晃

腰痛は現代人の宿命

腰痛に悩んでいる人は多いものです。全人口の60%以上が一度は腰痛を経験したことがあり、また、4人に1人は、現在も腰痛を持っているという調査結果が出ています。多くの場合は一過性の腰痛ですが、中には急性腰痛（ぎっくり腰）を繰り返す人や、慢性の持続する腰痛に悩まされるケースも見られます。



人間の姿勢と腰痛との関係

人間の背骨は、「緩やかなS字カーブ」を描いています。そのカーブは、「体重をうまく分散」させて直立のバランスを取ることに優れています。しかし、「彎曲部分が構造的に弱くなる」という欠点を抱えています。

重い頭を支える「頸椎」・上体の重みがかかる「腰椎」に、負担が大きい。その上、頸椎や腰椎はダイナミックに働くことが多く、周辺の筋肉は姿勢を保つために酷使されがちで疲れやすくなっています。

姿勢のよしあしを決める背骨

1. 背骨について

背骨は、椎骨という平べったい円柱状の骨が、骨盤の上に24個も積み重なってできています。首筋にある7個を頸椎、それに続き、肋骨と一体化している12個を胸椎、そして腰の部分にある最後の5個を腰椎といいます。

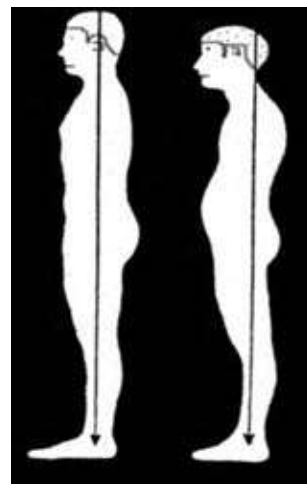
腰椎の下には、骨盤と一緒に逆三角形の仙骨が接続し、その仙骨にはシッポが退化したものだといわれる尾骨が付いています。

2. S字カーブ

人間の背骨は、正面から見ると直線ですが、真横から眺めると緩やかなS字カーブが確認できます。構造上立った時に、頭部や内臓などの上半身の重みを下半身にうまく分散させることができます。さらに歩行など運動時の衝撃を受け止めるのにも都合がよく、一種のバネのようになっています。

3. 腰の構造について

腰椎の椎骨は、他の背骨よりもビックサイズでかつ丈夫にできています。それでも腰痛を避けられない原因としては、腰椎の前彎を正しく保つのが難しいためです。



腰椎の前彎について

腰椎の前彎には、大切な役割があります。腰にかかる上半身の重みを受け止め、前傾している骨盤の上に背骨をまっすぐ立てるには、どうしても必要なのです。

この大切な前彎は、多くの筋肉の収縮によって支持され、中でも大切なのが、背骨のすぐ後ろにある脊柱起立筋と、お腹を縦に走る腹筋です。

脊柱起立筋の収縮は前彎を強めるように、腹筋の収縮は弱めるように働きます。運動不足や、姿勢の乱れなどで、前彎は強くなる傾向にあります。

腹筋は、日常生活ではあまり使わない筋肉だけに衰えがちで、脊柱起立筋は逆にいつも使われていてお疲れ気味です。前彎がキツくなると、脊柱起立筋は縮みっぱなしになって、慢性の腰痛が出てきます。

さらに前彎が強くなると、腰椎が前に滑り落ちようとするため、それを食い止めようとする腰椎後方の関節にストレスが加わります。こうなると、腰椎周辺を通る末梢の神経が圧迫を受ける場合もあります。そのどちらも痛みの原因となります。

個人差がある人間の姿勢

背筋がまっすぐ→平背＝へいはい

胸椎部がへこんでいる→凹背

背中がまるい→円背

前彎が強くと下腹部が出ている→凹円背

側方の変形による→脊柱側彎

スウェイバック（凹円背）

骨盤の前傾が甚だしい場合、腰椎前彎が強くなり、胸と下腹部が前方に、臀部が後方に突き出た姿勢となります。

股も膝も反るようになる＝大腿・下腿部の筋肉がつねに緊張し疲労が大きくなる＝その結果として、肩や腰に痛みが出ます。

カーブした人の背骨は矛盾した存在であります。直立歩行には不可欠ですが、正しい姿勢は保ちにくい。常に意識していないと姿勢は崩れるものです。

姿勢の基本は背骨と筋肉のバランス

S字カーブをきちんと維持するためには、背骨を取り囲んでいる多くの筋肉や靱帯が、複雑で微妙なパワーバランスを保たねばなりません。筋力（脊柱起立筋と腹筋）で背骨（椎骨）を固定し、適切な彎曲を維持します。だから筋力が衰えると、椎間板の柔軟性が逆効果を生み、正常なS字カーブを乱します。

その結果、背骨に歪みができてしまい骨盤の方にも影響してきます。姿勢も乱れていきます。

背骨も大事ですが、周囲の筋肉も劣らず重要です。ただ積み木のように椎骨だけを重ねてもS字カーブは維持できません。骨と骨とをしっかり結びつけ、安定した動きを約束する筋肉の動きがあってはじめて、背骨は理想的なポジションを確保できます。

（次回は「腰部を支える筋肉と椎間板について」を予定しています。）

国際部報告会、学術・生涯学習講習会開催のお知らせ

公益社団法人日本柔道整復師会「国際部報告会」「第20回 学術・生涯学習講習会」を下記の日程で開催予定です。ご家族やお知り合いの方もお誘いの上、ご参加ください。

日 時：平成24年10月7日（日） 午後1時00分開場

会 場：日本柔整会館 〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

定 員：100名

入 場：無 料

申込方法：日整「はつらつ！」6号にてお知らせいたします。

■公開講座プログラム（プログラム内容は変更する可能性があります）

・国際部報告会 公益社団法人日本柔道整復師会国際部

・富山大学寄附講座報告会

講 師／西条寿夫 富山大学大学院教授

・全国ボランティア活動報告 公益社団法人 大阪府柔道整復師会

・特別講演 講 師／久野信彦先生 公益社団法人 愛知県柔道整復師会

演 題／100歳まで歩ける！クノンボールエクササイズ

ちょっとお尋ねします…



がんばる女性会員

京都府 ^{さい}崔 ^{ともこ}朋子さん

転ばぬ先の知恵(杖)！ 機能訓練しています

崔朋子会員は京都市南区で「さい接骨院」を開業され、日々の柔道整復業務に励んでいらっしゃいます。

取材当日は京都市久世西老人デイサービスセンターでの機能訓練業務取材させていただきました。

個別訓練が中心で、セラピストでなければできない他動運動、筋力トレーニングが行われていました。利用者さんと笑顔で接している姿に温かさを感じ、厚い信頼関係で結ばれているように感じられました。

1) 開業年月日

平成15年6月

2) 柔道整復師になった動機



小学生のとき、ソフトボールで怪我をして接骨院でみてもらったことがきっかけです。

運動が好きで、怪我をすると接骨院でお世話になっていました。

高校生のときは、キャッチャーをしており、チームメイトの動作を見る機会が多かったです。いま思えば、運動を通して体の動きに興味があったのだと思います。人の体って不思議で、人体の仕組みや働きを知りたいと思ったときに、そういえば接骨院の仕事があるなあ、やってみよう!!!と思いました。

3) 女性柔道整復師としてよかったことは？ 困ったことは？

- 話しやすいのか、良いも悪いも改善したかどうかのジャッジを直接患者さんから聞けること。

- 妊婦さんが安心して来てくださる。
- 女学生では本人さんよりむしろ親御さんが安心感を持たれるようです。
- 体力が無い。
- 交通事故や労働災害など補償がかかわる負傷の場合、治癒の判断の正当性を説得力をもって伝えることに苦労することが多い。
- 対診をお願いしても自己判断されること。
まだまだです（泣き）。

4) 習得した特異な技術は？

専門学校時代から同期生やさまざまな先生方よりアイデア・知識・経験・心構え・患者さんとの接し方を教わりました。その節はありがとうございました。

現在はキネティックフォーラムで合理的な身体の使い方とは？季節や重力との調和とは？何かを勉強し、身体感覚を研ぎ澄ます練習をしています。

そこで、BC トータルバランスシステムの手技を習得中です。

※BC トータルバランスシステム

Bとは biomechanics 生体力学

Cとは cell 細胞

5) 近ごろ感動したことは？

デイサービスにて、1ヶ月ほど入院して帰ってこられた利用者さんが、刺激が少なかったせいか傾眠傾向で、ベッドで過ごされていました。

次週、いつもどおりの車いすに座られて笑顔もあり、卓球までされていました。職員さんのかかわりと本人さんの生きる力を素晴らしいと思いました。

6) 趣味は？

歩くこと。週2回くらい昼休みに1時間ほど歩いています。

「鴨川とコナン」とか、「京都駅とヨドバシ



カメラ」とか、伏見稲荷大社まで自転車で行き鳥居の階段を歩くとか、生活と用事と興味と季節感のあるところへ出かけています。

7) 好きな言葉は？

「心」

8) 将来の夢は？

女性ゆえ寿命が長いので、これからも仕事を続けていくことで、経験と技術の熟練が深まるのでパッと見てチャット分かる、プロフェッショナルになりたいです。



明るく元気にデイサービスの利用者さんと接する崔会員を取材して、笑顔やコミュニケーションの重要性を学び、あらためて柔道整復は知識や技術だけで行われるものではないと感じました。

また、BC トータルバランスシステムの手技を習得されるために日々努力されるなど、患者さんのために何事にも全力で取り組まれる姿勢に感服いたしました。崔会員ありがとうございました。

(広報員 中村英弘)

※

本の紹介

「フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる心理学」

日整学術部員 岩本 芳照

フジテレビ系列の人気番組「ホンマでっか!?TV」にコメンテーターで出演している美人心理学者といえば分かりやすいでしょうか。彼女の話は理解しやすく説得力ある説明で番組でも人気があります。その植木理恵氏が「私がずっと書きたかった本です!」として書き下ろした本を紹介します。



一般向けに心理学関連の本は多いのですが、ほとんどが「心理テスト」などを使って心理学的な「解(答え)」を並べて興味を引く類の本ばかりです。

その点、彼女の書きたかった内容は、そこに至るまでの「式」の立て方、つまり「学者の考え方」に焦点をあてたところに特徴があります。

「この性格タイプの人とは相性がいい」などと即物的な結論が「解」であり、このほうが確かに興味をそそられるのですが、その中身を理解することは困難です。

「式」というのは、その「解」を導くための「ものの見方」「結論までの考え方」といったプロセスの部分です。

「学問の本当の面白さは(もちろん『解』もさることながら)、それに至るまでの『式』、つまりプロセスの中にこそ潜んでいる」と語る植木氏の本は、少し深い内容になってはい



ますが、なるほどと思わせる、エビデンスを重視した本物の心理学本だと思います。

著 者：植木理恵
発行所：日本実業出版社
定 価：1,400円(税別)

平成24年度公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧

ブロック	担当都道府県	名 称	開催予定日	講師・演題
北 海 道	(公社) 北 海 道 柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第41回北海道学術大会 札幌大会	7 月 8 日(日)	「骨粗鬆症における脆弱性骨折について」 順天堂大学整形外科講師・福島整形外科 病院院長 福 嶋 稔 先生
東 北	(中 止)			
関 東	(社) 群 馬 県 接 骨 師 会	公益社団法人日本柔道整復師会 第35回関東学術大会 群馬大会	平成25年 3 月10日(日)	医療法人社団善衆会 善衆会病院 理事長・院長 木村 雅史 先生
東 京	(公社) 東 京 都 柔道接骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第31回東京学術大会 第80回東京都委託柔道整復師講習会	9 月 9 日(日)	医療法人社団宏友会 栗原整形外科院長 栗原 友介 先生 学校法人花田学園 東京有明医療大学教授 柚 木 修 先生
北 信 越	(社) 長 野 県 柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第34回北信越学術大会 長野大会	6 月17日(日)	「世界の水・長寿の水—知られざる 水の効能、からだによい水の飲み方—」 東京医科歯科大学名誉教授 藤田絃一郎 先生
東 海	(社) 岐 阜 県 柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第47回東海学術大会 主管:岐阜県 第94回中部接骨学会	11月 4 日(日)	名古屋市で開催予定
近 畿	(社) 和 歌 山 県 柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第37回近畿学術大会 和歌山大会	10月28日(日)	「癌抑制遺伝子 RB を用いた新しい癌の 予防法、診断法、及び治療法の開発」 京都府立医科大学教授 酒井 敏行 先生
大 阪	(公社) 大 阪 府 柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第 6 回大阪学術大会	11月18日(日)	未 定
中 国	(社) 鳥 取 県 柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第37回中国学術大会 鳥取大会	7 月 1 日(日)	浜松医科大学名誉教授・昭和女子大学客 員教授 高田 明和 先生
四 国	(社) 高 知 県 柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第47回四国学術大会 高知大会	7 月16日 (月・祝)	「投球障害肩」 信原病院院長・バイオメカニクス研究所所長 信原 克哉 先生 「イキイキ長寿健康法—免疫力を高める 生活習慣—」東京医科歯科大学名誉教授 藤田絃一郎 先生
九 州	(社) 大 分 県 柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第41回九州学術大会 大分大会	7 月16日 (月・祝)	「足関節ねんざ」 田淵整形外科クリニック院長・東京有明 医療大学客員教授 田淵 健一 先生

※会場、講師プロフィール等は、HP に掲載しておりますのでご覧ください。

“万葉の里マラソン” memory

石川県 堂本義邦

未曾有の震災から1年、平成24年3月11日(日)『能登和倉万葉の里マラソン』。

今年で4回目のサポートの日は、午前6時、天候を気にしながら朝食を。前日県内各地より集結したトレーナー・ブスサポーターたちとの綿密な打合せ。心地よい疲れが残りながらもサポート会場となる和倉観光会館へ。

午前中に押し寄せる選手たち。少しパニックになりながらも、テーピング、ストレッチなどのメンテナンス。約200名のサポート完了。

その後、ゴールしてきた選手たちを的確に処置し時間が過ぎていく。

午後からは天候が急変。雨・霰・雪・台風のような冷たい強風。うむっ!! これは…また例年のごとく(不安がよぎる)やっぱり来たか。

しばらくして低体温症・全身痙攣・下肢痙攣などの選手が、医師の救護所からの指示で救急隊員によって担架で搬送されてきた。

想定しての出来事。選手を観察し、適切な対処。想定しての準備した機器の使用やスタッフ

のケアにより、素早く回復に努める。一部に備品(温熱)の準備不足に反省。

その後、搬送された選手たちに「大丈夫ですか?その後いかがですか?」と声をかけると、次のように答えてくれた。

50代男性「おかげさまで何とか一人で運転して家に帰れます」

40代男性「このまま、息を引き取るのかと思いましたが、みなさんのお陰で元氣になりました」

60代女性「マラソンをして初めての経験です。みなさんに言葉だけでなく謝礼(治療代)ももらっていただきたい」

20代男性「これからは、寒さ対策して走ります」

30代男性「毎年、お世話になり感謝します」
(1回目搬送されての常連選手)

今年も少し自信につながった。483名の選手をケアした。選手からの一言の感謝や、やり遂げた充実感自分にとっても糧になる。参加してくれたみなさんも充実した活動ができたと思うし、その活動に感謝する。

この大会で得る糧は、接骨院内で得る糧とは違う。自分にとって価値ある経験となる。

この価値のある経験は毎年やってくる。その度に新しい経験の積重ねとなり、大きく膨らんでくる。

自分はもっと若い時期にこんな経験がたくさんできたらもっと違う価値観になっていたと思う。しかし今からでも遅くない。もっともっと夢を見て突き進んでいきたい。

自分もみんなも笑顔になりたい。大きな『震災』の後、まだ残る『心災』を少しでも自分の道で笑顔にして行きたいとあらためて思う。感謝

※



愛宕山登山

大阪府 吉永豊貴

京都府愛宕山は、海拔924mで、山頂には、防火、火伏の神として全国に800余りの分社を有している総本宮の愛宕神社が鎮座している。

平成24年1月3日に登って来た。山頂は、バス停の清滝からの表参道で4.4kmあり、かなりの急傾斜で歩いて3時間位かかる。

冬は、山頂付近には雪が積もり、雪の少ない大阪人にとっては別天地で、アイゼンを履いて雪を踏みしめながらの上り下りは、なんとも言えない感触である。秋の紅葉も素晴らしい。

愛宕山、最高！お勧めのスポットである。



▲筆者

※

◆原稿締切日は奇数月20日です◆

〈投稿される会員へお願い〉

最近、パソコンで作成された原稿が多くなっています。しかしながらせっかく入力されたデータでも、印刷された用紙だけでは、もう一度入力しなければならないのが現状です。

ワードまたは一太郎などで作成された原稿の場合は、そのファイルをメールで添付送付されるか、または原稿にフロッピーやCDを添付してお送り下さい。

作業効率向上、さらには編集会議の経費削減にもつながりますので、ぜひご協力ください。なおフロッピーやCDは返却しませんのでご了承ください。

★編集会議の結果、投稿の内容により未掲載となる場合もありますのでご了承ください。また「投稿」の場合、必ず日整広報原稿と記入または入力してください。

★投稿文は各都道府県事務所を通して応募ください。

★原稿・投稿者名にはふりがなをお願いします。

宛先：「日整広報」<kouhou@shadan-nissei.or.jp>

日整はつらつ！発行日と原稿締切

※原稿の締切厳守をお願いします。(広報部)

号 数	6 号	7 号	8 号	9 号	10号	11号
原稿締切	5月20日	7月20日	9月20日	11月20日	平成25年 1月20日	3月20日
発 行	7月20日	9月20日	11月20日	平成25年 1月20日	3月20日	5月20日

日 整 文 芸

(作品は1人3首〈句〉までといたします)

【短 歌】

山梨県 明風 散人

回 想

将来は医師を夢見し若人は

万難排し初心つらぬく

医は仁術と僻地医療に挺身し

信念つらぬき十余年を経つ

思い遣り心遣いの細やかに

整形病棟朝が始まる

【模 様】

奈良県 長谷川浩行

早春の季節は遠き舞う雪に

天を仰ぎて心失せるや

淡雪や溶けて草花姿をも

手にとる息吹春待ちたるや

春の音柔らかな風運びして

華の花びら天空に舞う

【俳 句】

群馬県 鈴木 乗風

菜種梅雨

薬師より自愛の書状菜種梅雨

冴返る形見の服の匂ひかな

乙女らの輪切りキュウイの春を呼ぶ

【川 柳】

北海道 阿部 篤夫

外吹雪 友より届く万年青咲く

吹雪あと午後の患者が少し増え

春遠い彼岸過ぎててもまだ雪が

石川県 東 勝一

終列車汽笛を残して走り去り

日本海あの日の旅は遠くなり

今の旅 時短 軽装 快適性

「日整文芸欄では一般の方々からの投稿を募集しております」

広 報 部

日整文芸は、会員の方に加え、一般の方々からも「短歌」「俳句」「川柳」を募集します。一般の方の投稿は、日本柔道整復師会会員を通じて、都道府県名、紹介会員名および連絡先、作品提出者名を明記の上、ご応募してください。

日整文芸を通じて読者の皆様とよい交流の場となれればと願っております。

作品は会員と同じく1人3首〈句〉までといたします。多くのご応募をお待ちしております。

宛 先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会広報部
TEL : 03-3821-3511 FAX : 03-3822-2475
E-mail : kouhou@shadan-nissei.or.jp

編集後記

■日整広報175号(平成17年11月25日発行)から掲載を始めた(社)全国柔道整復学校協会加盟校、学生の作文「私の夢」、今年で7年目になります。第1回目神戸よりかさんから、「おかあさんのような柔道整復師になれたら」と素晴らしい投稿でした。以後、今回で40名の学生さんに投稿いただいたことになります。それぞれの環境で育ち柔道整復師とのふれあい、中には僅かなきっかけからこの道に進まれた方も大勢いたと記憶しております。皆さん頑張っているだろうか。

我が業界も決して恵まれた環境ではありませんが、初心を忘れることなく若さ熱意と行動力で目標に向けて夢をかなえていただきたいと祈っています。(多毛家)

■久々に鎖骨骨折の患者さんが来院し、順調に治癒に向かう経過を見ながら柔道整復による自然治癒力に感心していた今日この頃だった。

そんなときに第1回柔道整復国際シンポジウムが開催された。その記事で酒井重数学術部員は「国民の医療と福祉の向上のためには伝統医学の存在が重要」とのモンゴル国、ベトナム国からの提言があったと報告している。さらにこのことは超高齢化社会を迎えている我が国において、医療の一翼を担う柔道整復師の活用が、日本における医療と福祉の向上のためには重責を担っているとの確信を得たと、感想を述べている。柔道整復が各国の地域医療の質を高め、医療と福祉に貢献していくことを期待したい。

(家真舵)

■千葉県県民公開講演会報告の記事で、日本コンチネンス協会会長・西村かおる先生のお話のとおり、健康に過ごすための要素「快食・快眠・快便」の中の一つ、排泄の快適性をとり上げ、排泄という行為は、人が生を受けた限り死ぬまで毎日繰り返すものであり、気持ちよく排泄できることは、気持ちよく生きていることに他ならない、と述べている。還暦前後になると、小便のキレの悪さ・便秘気味でスッキリした排泄

ができないのが現状である(個人差があるので一概には言えない)。今後は、排尿はある程度我慢する。排便は我慢すると便秘を誘発するので、なるべく我慢しない。そして、「尿・便失禁は体操で治せる」とのことで、男性用の骨盤底筋体操を継続していきたい。(魅家下)

■石川県県民公開講座の報告で、「救急医から見た外傷、その疼痛管理」と題し、我々柔道整復師の一番弱いところの痛みを例とした神経のお話が紹介されています。

通勤途中バイクに轢かれるも、さほどの痛みもなく、一日仕事をし、帰りにわき腹を押さえると痛いため、接骨院に寄りその晩自宅で亡くなった。「神経は痛みを感じると、逆にその痛みを抑制する刺激が出て自覚がないことがある」。その人は、脾臓破裂でした。非常に怖いお話です。このように、広報誌を読むだけでも、その学術講演会に出席したような、臨場感あふれる広報誌を目指したいと思います。

(和座尾)

■3月25日に公益社団法人日本柔道整復師会の全国会長会が開催されました。学術部から報告された日整の富山大学寄附講座での研究は、目的達成へ一步一步近づいているようです。これは同大学の大学院医学薬学研究部で、柔道整復師が行う非観血的療法(後療法)の有効性について、基礎と臨床の両面から研究しているものであり、「柔道整復(神経・整復学)講座」と称されています。

報告によれば、科学的な解明により更なる柔道整復学構築と同時に、国内学術会議や国際学術会議の継続的な開催などの実績を積み重ね、独立行政法人大学評価・学位授与機構での柔道整復学の区分新設を目指すようです。この機構が授与する「学士の学位」は大学卒業者に与えられる「学士の学位」と同等として認められているようです。よって大学院受験資格をはじめ、修士や博士の学位の取得につながるようです。このことを一刻も早く実現し、柔道整復学博士の誕生を待ちたいところです。(多夢楽)

「日整はつらっ!」VOL. 5 MAY 2012

平成24年5月20日 発行

公益社団法人 日本柔道整復師会

〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

電話 (03)3821-3511 (大代表)

発行人 萩原 正

編集者 永田 官久

制作 サン企画

印刷所 株式会社プレシーズ



柔道整復師倫理綱領

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名譽を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓つものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽す。